

東北環境パートナーシップオフィス 運営第6期

令和5年度 事業実施報告書

運営第6期：令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方

ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

目次

I .EPO 東北 運営期ごとの記録		
1. 運営期と主な出来事		P4
2. EPO 東北事業の変遷		P6
3. 情報発信の記録		P11
II . 事業計画		
1. 運営第 6 期 中期事業計画		P16
2. 令和 5 年度 事業計画		P19
III . 事業報告		
1. 令和 5 年度 事業総括		P27
2. 事業実施一覧		P28
3. 出張・外出のべ日数		P36
4. 事業実施報告		
(1) EPO 東北業務		
1) 運営		
①事業検討委員会の開催運営		P37
2) 基本業務		
①ウェブサイト等を活用した情報発信、PR		P38
②相談対応、対話の場作り及び過去案件のフォローアップ		
③全国事業に係わる業務		P40
③ -1. 全国 EPO 連絡会議		
③ -2. 「協働取組」捉え直しタスクフォース		
③ -3. 地球温暖化防止活動推進センター北海道・東北ブロック会議		
④地方 EPO ネットワークとの情報交換会		P41
⑤東北地方環境事務所との協働		
⑥施設の維持・管理		
3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務		
①地域循環共生圏プラットフォーム事業に係る業務		P42
① -1. 環境整備支援<新規>一般社団法人ゴジョる		P44
① -2. 環境整備支援<新規>西川町地域資源活用イノベーション推進協議会		P45
① -3. 環境整備支援<継続>株式会社アースカラー		P46
① -4. 東北ブロック中間共有会		P47
① -5. GEOC が主催する会議等への参加		
① -6. 事業化支援団体の活動の情報共有		P49
① -7. 支援終了団体のフォローアップ調査：米沢市		P50
① -8. 支援終了団体のフォローアップ：一般社団法人 Reborn-Art Festival		
②地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会		P51
② -1. 生物多様性勉強会		P52
② -2. シンポジウム「生物多様性と秋田の未来」		
③地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業		P53
③ -1. フォーラム「気候危機時代を生き抜くサステナブル経営」		P54
③ -2. あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー		P55
③ -3. 事業者向け ESD/SDGs セミナー 「企業として SDGs にどう向き合うべきか」		
③ -4. 金融機関との情報交換		P56
③ -5. 過年度事業フォローアップ		
③ -6. 事業検討会議		
④パートナーシップ団体情報交換会等の開催		P57
4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化		
①みちのく薪びと祭り Stage2in 釜石		P58

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務		
1) 運営		
①企画運営委員会の開催運営等		P61
2) 基本業務		
① ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供		P62
② ESD 活動に関する相談及び支援窓口		
② -1.ESD 活動に関する相談及び支援		P63
② -2.ESD 地域コーディネーター		P64
3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供		
① ESDfor2030 学び合いプロジェクトの実施		P65
②ノウハウの共有と推進に関する方策の検討		P69
4) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催		P70
5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援		P72
6) ESD 研修会		P73
7) 全国センターとの連携協力の推進等		
① ESD 全国フォーラム		P74
② ESD 活動支援センター（全国地方）連絡会		P75
③全国協力団体意見交換会		
④全国センター企画運営委員会		
(3) その他 企業等との協働事業		
1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携		P76
2) 青森県 令和5年度環境配慮行動拡大モデル事業		P77
3) マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト		P78

【I .EPO 東北 運営期ごとの記録】 1. 運営期と主な出来事

I -1. 運営期と主な出来事

期	運営団体	年度	主な出来事	
			EPO 東北 主な出来事	社会の出来事
第1期	NPO 法人 水環境ネット 東北	平成 18 年度 (2006)	EPO 東北 開設	国連 ESD の 10 年 (2005 ~ 2014 年)
		平成 19 年度 (2007)		
		平成 20 年度 (2008)		
		平成 21 年度 (2009)		
第2期		平成 22 年度 (2010)	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性条約第 10 回締約国会議 生物多様性交流フェアブース出展 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知目標 (2011 ~ 2020 年) 東日本大震災 (2011/3/11)
		平成 23 年度 (2011)	<ul style="list-style-type: none"> 「3.11 あの時」ヒアリングスタート 	<ul style="list-style-type: none"> 国連生物多様性の 10 年 (2011 ~ 2020 年) 
		平成 24 年度 (2012)	<ul style="list-style-type: none"> 「3.11 あの時」レポート冊子化 伴走支援型事業「環境 NPO 等ビジネスモデル策定事業」(H24 ~ 25) 	<ul style="list-style-type: none"> 国連持続可能な開発会議
第3期	公益財団法人 みやぎ・ 環境とくらし・ ネットワーク (MELON)	平成 25 年度 (2013)	<ul style="list-style-type: none"> 伴走支援型事業「協働取組の加速化 事業」(H25 ~ H29) 	<ul style="list-style-type: none"> 三陸復興公園の創設とみちのく潮風 トレイルの開通
		平成 26 年度 (2014)	<ul style="list-style-type: none"> EPO 東北オフィス移転 みちのく薪びと祭り開催 (H26 ~ R元年) 	<ul style="list-style-type: none"> ESD ユネスコ世界会議 (愛知県) グローバル・アクション・プログラ ム (GAP) (2015 ~ 2019 年) 
		平成 27 年度 (2015)	<ul style="list-style-type: none"> 「3.11 あの時」事例集発行 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標 (SDGs) 採択 パリ協定 採択
第4期		平成 28 年度 (2016)	<ul style="list-style-type: none"> 地方 ESD 活動支援センター設置に向 けた体制整備等検討業務 	<ul style="list-style-type: none"> ESD 国内実施計画策定 ESD 活動支援センター 開設
		平成 29 年度 (2017)	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方 ESD 活動支援センター開設 	<ul style="list-style-type: none"> ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 
		平成 30 年度 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> 伴走支援型事業「環境課題と社会課 題の同時解決事業」(H30 ~ R1) 	<ul style="list-style-type: none"> 第 5 次環境基本計画で「地域循環共 生圏」提唱 

期	運営団体	年度	主な出来事	
			EPO 東北 主な出来事	社会の出来事
第5期		令和元年度 (2019)	<ul style="list-style-type: none"> • みちのく薪びと祭り東北一巡達成 • 機関誌 EPO 東北通信の改定 	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスが世界中で広がる • 持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）採択
		令和2年度 (2020)	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染防止措置の徹底 • 伴走支援型事業「地域循環共生圏プラットフォームづくり事業」（R2～5） • オンライン会議／催事の開催 	<ul style="list-style-type: none"> • ESD for 2030（2020～2030年） • 新学習指導要領スタート（小学校） • 政府が2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言
		令和3年度 (2021)	<ul style="list-style-type: none"> • ESD for 2030 学び合いプロジェクトの実施（R3～） • 東北 ESD/SDGs フォーラム in あおもり開催 	<ul style="list-style-type: none"> • 脱炭素ロードマップ策定 • 第2期 ESD 国内実施計画策定 • グラスゴー気候合意採択 • 新型コロナウイルス感染症変異株の流行
第6期		令和4年度 (2022)	<ul style="list-style-type: none"> • みちのく薪びと祭り2年ぶりの対面開催 • 収録型アーカイブ配信を試行 • 「ESD 地域コーディネーター」の試行 	<ul style="list-style-type: none"> • 30by30 ロードマップの策定 • 地球温暖化対策推進法の改正 • 2050年カーボンニュートラル実現を法律に明記 • 環境省が「脱炭素先行地域」を選定 • 国際目標「30by30」採択 
		令和5年度 (2023)	<ul style="list-style-type: none"> • 「ESD 地域コーディネーター」の拡充と協働事業の実施 • 伴走支援型事業「地域循環共生圏プラットフォームづくり事業」最終年度 • 青森県内の地域 ESD 拠点と連携した ESD for 2030 学び合いプロジェクトを実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 国内の認定制度「自然共生サイト」認定開始 • 国連気候変動枠組条約締約国会議（COP28）でエネルギーシステムにおいて化石燃料から転換していくことに合意
		令和6年度 (2024)		<ul style="list-style-type: none"> • 国連未来サミット開催

【I .EPO 東北 運営期ごとの記録】 2.EPO 東北事業の変遷

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

EPO東北
独自事業

主催型

シンポジウム
フォーラム

交流会型事業へ

再生可能エネルギー交流会



再生可能エネルギー交流会①②



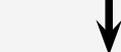
東日本大震災対応

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

- ・1週間閉館/スタッフ自宅待機
- ・3/22～出勤
 - 各家庭の状況確認
 - 事務局体制、勤務について協議
 - 東北地方環境事務所と対応協議



現場踏査・ヒアリング



- ・Web サイト特設ページ開設
- ・3.11からの学びの記録・発信



継続

冊子化①



環境省伴走支援事業、他

COP10
生物多様性交流フェア
ブース展示



復興支援活動のマッチング
グリーンサンタ®
被災小学校・幼稚園訪問



環境 NPO 等
ビジネスモデル策定事業

【宮城】NPO 法人東鳴子ゆめ会議
【宮城】NPO 法人日本の森
バイオマスネットワーク



運営第3期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

EPO東北
独自事業

事業連携の模索

地域開催型へ

分科会

テーマ「薪」
テーマ「BDF」

みちのく薪びと祭り
第1回 in 山形さんぜ

第2回 in 岩手とおの

EPO 間連携

再生可能エネルギー交流会 in 広島

再生可能エネルギー交流会 in 福岡

再生可能エネルギー交流会 in 四国

中間支援組織交流会 in 宮城

中間支援組織交流会 in 広島

中間支援組織交流会 in 関東

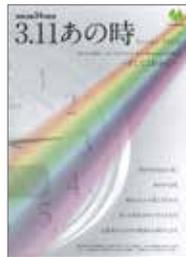


東日本大震災対応

現場踏査・ヒアリング

追加ヒアリング

冊子化②



冊子化③



事例集

「3.11 あの時
教訓事例集
- 中間支援組織
1年間の後方支援活動
の記録 -」



EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知



環境省伴走支援事業、他

【岩手】(株) 紬
【宮城】(一社) チガノウラカゼコミュニティ

地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【宮城】(一社) 持続可能で安心安全な社会を
めざす新エネルギー活用推進協議会



事例集

地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【青森】(一社) 白山山地財団



【岩手】マイムマイム奥州
【秋田】(一社) あきた地球環境会議



運営第4期

H28 (2016) 年度

H29 (2017) 年度

H30 (2018) 年度

協働の実践

協働型の交流会開催へ

みちのく薪びと祭り

● 第3回 in 福島みなみあいづ

● 第4回 in 宮城なるこ

● 第5回 in 秋田梅内

EPO 間連携

● 中間支援組織交流会 in 四国

ビジターセンター交流会

第1回 in 仙台
第2回 in 網張ビジターセンター

EPO東北
独自事業



地方 ESD 活動支援センター設置に向けた体制整備等検討業務

東北地方 ESD 活動支援センター

- ・7/3 開設
- ・東北ESDフォーラム2018(仙台)

東北 ESD フォーラム in 岩手



東北ESDセンター

EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

● ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知

● ESD 学びあいフォーラム in 中部

● ESD 学びあいフォーラム in 愛知

東日本大震災対応

事例集
「3.11 あの時
教訓事例集」



地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

【秋田】(一社)あきた地球環境会議
【山形】三瀬地区自治会

【山形】三瀬地区自治会

SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業

【山形】三瀬地区自治会

環境省伴走支援事業

環境教育における「ESD 推進」のための先導的取組調査・実践拠点支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【岩手】マイムマイム奥州

環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【秋田】(一社)あきた地球環境会議

【秋田】(一社)あきた地球環境会議



運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

リソースの活用

ネットワーク型の事業展開

みちのく薪びと祭り

第6回 in 青森おおわに

薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北

薪びと祭りキーパーソン会議 in 鳴子

EPO 間連携

第3回 in 名取トレイルセンター

中止

第4回 in 裏磐梯ビジターセンター

第5回オンライン開催

ビジターセンター交流会



EPO 東北
独自事業

東北ESDセンター

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森



- ・東北 ESD/SDGs フォーラム 2020 YouTube 配信
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森



- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in あおもり
- ・「ハイブリッド開催」
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト



東日本大震災対応

- ・福島ヒアリング



2020/1/14 WHO 新型コロナウイルスを確認
1/16 日本国内で初めて感染確認

- ・福島ヒアリング

大震災から 10 年

新型コロナウイルス感染症の流行

- 第1波 3～5月【緊急事態宣言(1回目)】
- 第2波 7～8月
- 第3波 11～3月【緊急事態宣言(2回目)】

- ・執務室・会議室の感染予防対策実施
- ・会議室貸出ガイドラインの作成
- ・オンライン会議/催事の実施
- ・感染状況に応じて出張・外出、対面打合せの自粛

- 第4波 3～4月【緊急事態宣言(3回目)】
※変異ウイルス(アルファ株)
- 第5波 7～9月【緊急事態宣言(4回目)】
※変異ウイルス(デルタ株)
- 第6波 1～6月
※変異ウイルス(オミクロン株)

環境省伴走支援事業

【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施

地域循環共生圏づくりプラットフォーム支援等業務

- 【宮城】(一社) Reborn-Art Festival (リボン・アート・フェスティバル)
- 【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

- ・ESG 金融フォーラム in 岩手

《事業化支援》

【宮城】(一社) Reborn-Art Festival

《環境整備》

- 【青森】NPO 法人循環型社会創造ネットワーク
- 【山形】三瀬地区自治会
- 【山形】米沢市



- ・ESG 金融シンポジウム in 秋田

運営第6期

R4 (2022) 年度

R5 (2023) 年度

R6 (2024) 年度

運営体制の模索

みちのく薪びと祭り

● Stag2 in 三瀬

● Stag2 in 釜石

※共生圏 PF 事業 中間共有会と連動開催

EPO 間連携

EPO東北

生物多様性

- ・勉強会
- ・動画配信



- ・シンポジウム生物多様性と秋田の未来

ステークホルダー連携促進事業

- ・フォーラム「気候危機時代を生き抜くサステナブル経営」(宮城)
- ・ESG 金融・脱炭素経営セミナー in 青森
- ・事業者向け ESD/SDGs セミナー(宮城)
- ・過年度事業フォローアップ

東北 ESD/SDGs フォーラム

YouTube 配信、アーカイブ配信

- ・ハイブリット開催(宮城)
- ・アーカイブ配信

ESDfor2030 学び合いPJ

地域 ESD 拠点、学校との連携

- ・ESD 地域コーディネーターとの協働
- ・学校との連携
- ・あおもり気候変動教育プログラムの創出

ESD 地域研修会

- ・ESD 実践校の支援 3 件
- ・環境施設との意見交換会

- ・ESD 地域コーディネーターとの協働

ESD 地域コーディネーター

試験的な導入・実施

- ・ESD 地域コーディネーターの拡充



東北ESDセンター

地域循環共生圏づくり

プラットフォーム支援等業務

- 《事業化支援》
- 【宮城】(一社) Reborn-Art Festival
- 《環境整備》
- 【岩手】(株) アースカラー
- 【山形】米沢市

- 《事業化支援》
- 【山形】日承循環合同会社
- 《環境整備》
- 【岩手】(株) アースカラー
- 【岩手】(一社) ゴジヨる
- 【山形】西川町地域資源活用イノベーション推進協議会



環境省伴走支援事業

地域循環共生圏

パートナーシップ基盤強化事業

- ・ESG 金融セミナー in 青森, in 弘前
- ・ESG 金融フォローアップ研修@秋田

新型コロナウイルス感染症の流行

第7波 7月～9月 ※変異株の流行
3/13～マスクの着用は個人の判断が基本

5/8 感染法上の分類を5類感染症へ移行

【I .EPO 東北 運営期ごとの記録】 3. 情報発信の記録

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

ウェブサイト等

環境の整備

情報発信ツールリニューアル

- Web-site
- メールマガジン (月 1 回 + 増刊号)
- リーフレット
- 封筒

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

【緊急対応】

Web-site

- 3/17 閉館のお知らせ掲載
- 3/24 ~ 震災対応に関するお知らせ掲載

Web-site

「3.11 あの時」特設ページ開設

- スタッフ発信「現地レポート」
- 「3.11 あの時」レポート配信



サイトリニューアル

- 「3.11 あの時」特設ページ → 常設ページへ
- 前年度掲載ページの移行



機関誌

- 紙面リニューアル
- 年 2 回発行



- 特集面に環境復興再生プロジェクトを掲載
- エコグッズ紹介面に復興支援商品を掲載



継続



- Vol.16 (2012年11月号) ~ 特集面を EPO 東北の取組み紹介ページに変更

冊子等



ESD テキストブック
パートⅡ
広げよう東北の環境力
ESD つながる事例集



3.11 あの時
2011 年版



運営第3期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

ウェブサイト等

サイトリニューアル



7月16日

Web-site 障害発生

不正な改ざんを確認
→対応、対策協議
→サーバー初期化

メールマガジン

・月2回配信へ

6月14日
オフィス移転

- ・リーフレット改訂
- ・各種表示の改訂



サイトの新規構築

スタッフが構築していた体制を見直し、専門業者へ依頼



- ・3.11 あの時 2015年版
レポート配信開始



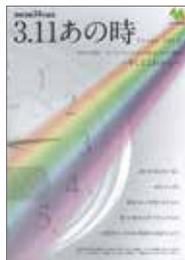
機関誌

- ・特集面を取材記事の掲載に変更



冊子等

3.11 あの時
2012年版



3.11 あの時
2013年版



3.11 あの時事例集
—中間支援組織
1年間の後方支援
活動の記録—



◆ 3.11 あの時
2011年版 増刷



環境ソーシャル
ビジネス事例集
地域を輝かせる
Made in TOHOKU
～環境を活かす
14のチャレンジ～

EPO 東北6年間の
運営業務 総括
運営第2期～第3期



運営第4期

H28 (2016) 年度

H29 (2017) 年度

H30 (2018) 年度

ウェブサイト等

- 東北地方 ESD 活動支援センター
- ウェブサイト開設 (9/1)
 - リーフレット作成
 - 封筒改定



機関誌

- 表紙をマイナーチェンジ
- 東北6県トピックスデザイン変更



- 特集面を寄稿記事に変更



冊子等

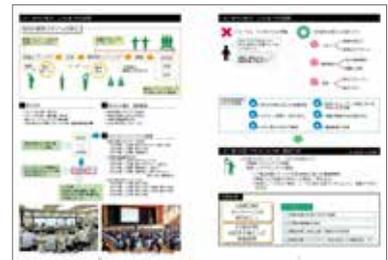
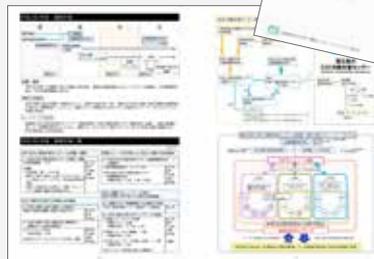
3.11 あの時
教訓事例集



EPO 東北
業務報告書の
ビジュアル化



東北地方 ESD 活動支援
センター業務報告書の
ビジュアル化



運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

ウェブサイト等

メールマガジン

- ・リニューアル（9月配信号から）EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センターからの情報を掲載

リーフレット改訂

- ・EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センターのリーフレットを一本化



EPO 東北ウェブサイト

- ・レンタルサーバーのPHPバージョンアップに伴うシステム全般の改修
- ・サイトリニューアル（レスポンス対応）

東北地方 ESD 活動支援センターウェブサイト

- ・全国センターへ更新依頼を行う体制から、東北地方 ESD 活動支援センター内で更新作業ができる体制への移行

メールマガジン

- ・レンタルサーバーのPHPバージョンアップに伴いメールマガジン配信に不具合が発生（11月）
- ・配信システムの見直し

オンライン会議 / 催事対応

- ・Web 会議システム、機材の導入



メールマガジン

- ・配信システムの外部サービス利用開始

オンライン会議 / 催事対応

- ・機材の追加整備
- ・催事での配信業務の外部委託

機関誌

EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センター PR ツールとして機関誌の位置づけを見直し

- ・紙面リニューアル
- ・8 ページ→ 16 ページへ
- ・年 2 回発行→年 1 回発行へ



R3 年度 3 月で発行を終了

冊子等

SDGs 紹介チラシの作成



SDGs 紹介子ども向けチラシの作成



業務報告書の一筆化

運営第6期

R4 (2022) 年度

R5 (2023) 年度

R6 (2024) 年度

ウェブ
サイト等

オンライン会議対応

- ▲不具合の発生 (4月～)
 - ・音声の乱れ
 - ・ネット接続が切れる
- 【対応】(6月～11月)
 - ・通信環境の調査
 - ・執務室内接続の変更
 - ・新たにWi-Fiアクセスポイントの設置 (11/16)

オンライン催事対応

- ・配信業務の外部委託
- ・スタジオ収録型アーカイブ配信の試行



EPO 東北ウェブサイト

MySQLバージョンアップに伴う、WEBサーバのバージョンアップ対応
作業期間中の更新停止 (7/4～7/6)

東北 ESD センターウェブサイト

- ・WEBサーバ移行に伴う対応
作業期間中の更新停止 (4/20～4/26)
- ・サイト内のカテゴリ分類を再編
- ・地域 ESD 活動推進拠点を紹介する電子パンフレット掲載



メールマガジン

配信サービス終了に伴う
利用変更

業務報告書類の見直し

- ・事業報告、催事報告書類の廃止
- ・「事業実施報告書」への一本化



東北 ESD センターパンフレット

- ・東北 ESD センターの紹介
- ・地域 ESD 活動推進拠点
10 団体の紹介



冊子
等

プロジェクトごとのまとめ資料作成

- ・みちのく薪びと祭り
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト



TEEN24 調査協力

日中韓環境教育ネットワーク (TEEN)
『気候変動の緩和と適応を目標とした環境教育～「参画」に焦点を当てて～』に関する比較調査に協力、公式ウェブサイトで公表

運営第6期

令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）

中期事業計画と令和5年度事業計画

運営第6期 中期事業計画

これまで EPO 東北では県境を越えて東北ブロックのネットワークを形成することに注力してきました。社会の動きは大きな変革期を迎えており、地域の課題解決にあたり、課題の本質を見極めること、環境面だけではなく社会的・経済的な側面からも向上を図る視点を持つことが肝要です。また、その実行にあたっては多様な主体の連携・協働が欠かせないことから、分野を横断する重層的なネットワークの構築により、多角的な視野を持って課題解決の手法を議論し、これまでにはない新しい取組みを創出することが期待されます。

そこで、仙台に拠点がある EPO 東北並びに東北地方 ESD 活動支援センターの連携を円滑にするため、新たなネットワーク基盤及び運営基盤づくりに取り組みます。パートナーシップ団体や地域 ESD 活動推進拠点、地域で活動に取り組む様々な主体との連携・協働のあり方を見直し、オンラインの手法を活用しながら時代に即したスタイルへとネットワークを結び直します。ついては、新たに地域の活動を支援するコーディネーターを発掘し、「地域リソースの活用」からステップアップし、「地域リソースが主体的に動くしくみ」づくりを目指します。環境活動に取り組む自治体、NPO、企業、大学等、多様な主体に働きかけることで、活動の底上げを図ります。



目標 新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立

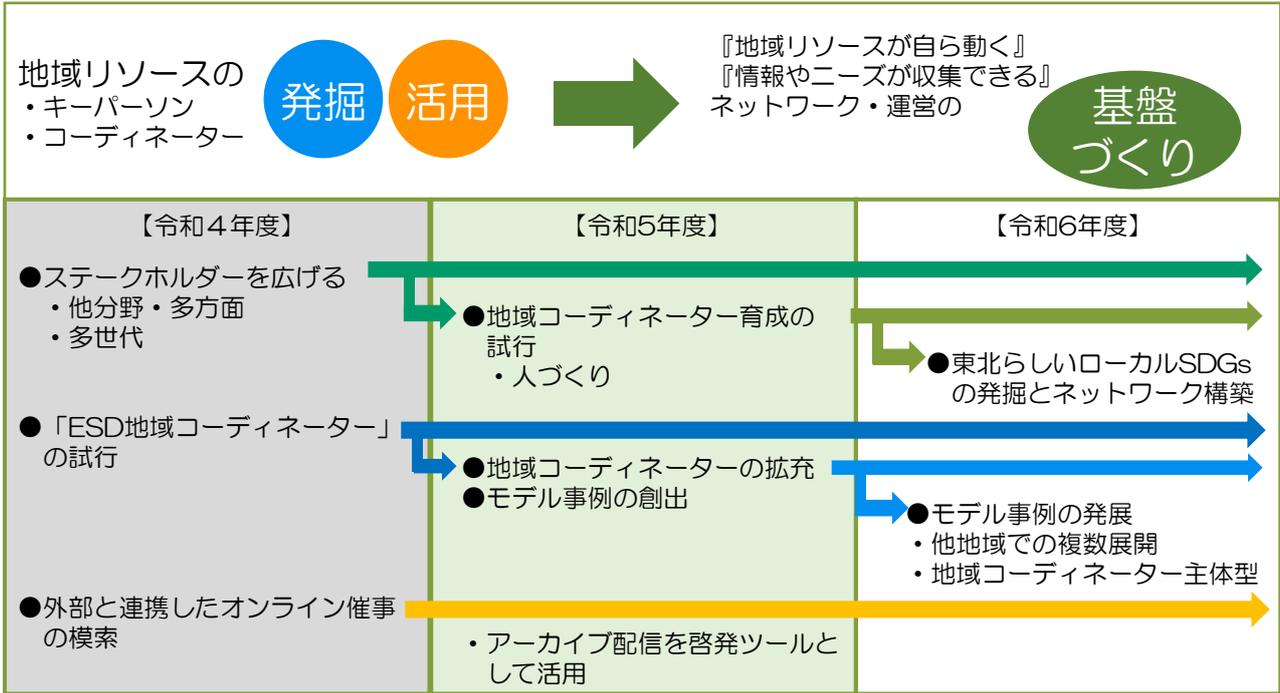
- ・地域ネットワークと接続した重層的・複線的なネットワークを構築する
- ・外部リソースを活用した運営体制

課題

新たなテーマでの連携・協働体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・「脱炭素」「OECD」等、新たなテーマへの対応 ・ESDの質的向上・量的拡大
既存の地域ネットワークとの接続	<ul style="list-style-type: none"> ・既存ネットワークの結び直し ・時代に即した連携・協働のあり方の模索
運営体制の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化 ・外部リソースの活用

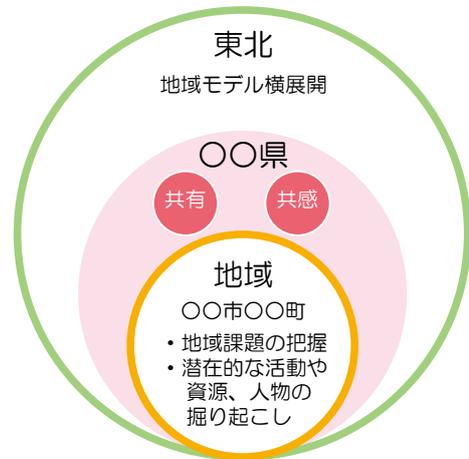
業務の目的

運営第6期（令和4年度～令和6年度）
 中期目標：新たなネットワーク基盤・運営基盤の確立



【ネットワークの展開イメージ】

- STEP1 地域への働きかけ
- STEP2 地域から県域への広がり
- STEP3 モデルを東北の他の地域へ横展開



業務の目的

EPO 東北が環境教育等促進法に規定する国の役割を果たすため、また、東北地方 ESD 活動支援センターが国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、以下を目的に業務を推進します。

- ①様々な主体との連携・協働の取り組みを広げ、効果的かつ効率的に環境保全活動や環境施策への協力及び ESD 活動を活性化させること
- ②東北ブロックにおける多様な主体のネットワークの構築により ESD の質的向上・量的拡大を図ること
- ③地域の ESD と地域内外の ESD 活動をつなぎ、人づくりの側面から ESD の目標である SDGs 実現への貢献に寄与すること
- ④地域循環共生圏および地域脱炭素ロードマップの考え方にに基づき、持続可能な地域づくりを通じて環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むこと

東北環境パートナーシップオフィス 令和5年度事業計画書

1.EPO 東北運営業務

(1) 事業検討委員会の開催運営等

概要	EPO 東北業務の実施に当たり、幅広い知見から意見を聴取することを目的に NPO、行政及び企業等の関係者からなる委員会を設置し、年 2 回の委員会を開催する。				
委員	8 名				
委員会	開催日程		形式	開催地	内容
	第 1 回	5 月末	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	2 月上旬	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取
任期	3 年間（運営第 6 期 R4 ～ 6 年度）				
	【備考】 行政関係者委員については管内県の環境教育担当課長へ委嘱し、任期は 1 年とする。	年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
		委嘱	岩手県 宮城県	秋田県 山形県	青森県 福島県

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	イベント情報のほか関係機関の動向、公募や助成金情報等を Web サイトに掲載し広く情報発信を行う。				
	メールマガジン	月 2 回、定期的にメールマガジンを発行して情報発信を行うとともに Web サイトの閲覧を誘導する。				
	その他	運営第 6 期から紙媒体の運用を見直し「EPO 東北通信」の発行をとりやめた。事業ごとのとりまとめ資料等を作成し、PDF データを事業紹介ツールとして活用する。				
相談対応等	環境教育等促進法第 19 条 1 項に基づく国の地域 ESD 拠点として、各種情報紹介及び相談に対応し、必要に応じた助言を行うとともに各種会合に参加する。また必要に応じてパートナーシップ形成のための対話の場作り、過去に対応した案件のフォローアップを行う。					
全国事業に関わる業務	開催日程		形式	開催地	会議の目的	
	全国 EPO 連絡会議	第 1 回	5 月	オンライン	—	各地方 EPO 間の連携強化と情報共有を目的に開催される。
		第 2 回	10 月	対面	北海道	
		第 3 回	1 月	対面	東京	
パートナーシップタスクフォース	未定	対面	東京	各地方 EPO が実施する協働取組の効果最大化に関する検討を行う。		
情報交換会	未定	対面	東京	持続可能な地域づくりのための情報交換を行う。		
東北地方環境事務所との協働	開催日程		形式	開催地	会議の目的	
	事業運営会議	第 1 回	4 月	対面	宮城	業務の進捗について東北地方環境事務所と定期的な共有の場を設け、事業内容について意見交換を行う。
		第 2 回	6 月			
		第 3 回	8 月			
		第 4 回	10 月			
		第 5 回	1 月			
施設の維持・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・R5 年度 4 月 1 日から開館時間を 9:00 ～ 17:30 に変更（R4 年度まで 9:30 ～ 18:00） ・民間団体等が環境保全に関する情報交換や交流を図る機会を増やすため、会議スペースの供用、他団体の発行する機関誌等の配布スペースの確保及び関連図書の出借等を行う。 					

(3) 地域循環共生圏プラットフォーム事業に係る業務

概要	「令和5年度環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」に採択された活動団体に対して構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に応じた支援を行う。				
		時期	内容		
	ヒアリング	4月	団体の事業目標及び年間計画についてヒアリングを行い、ヒアリングシートおよび年間支援計画をGEOCに提出する。		
	伴走支援	4月～3月	構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に応じた支援を行う。		
	定例会議	月1回以上	採択団体と電話やメール連絡、オンラインまたは対面の会議を実施する。		
会議名等	開催日程	形式	開催地	内容	
中間共有会	9～11月	対面	未定	環境整備団体間のノウハウ交流や学び合いに加え、関係者（全国事務局）が団体の活動状況を把握するために東北ブロック中間共有会を開催する。	
ステークホルダーミーティング	7～1月	対面	①岩手県釜石市 ②山形県西川町 ③岩手県普代村	環境整備団体が主催する地域のステークホルダーを対象としたミーティング（1回以上）の後方支援を行う。	
会議	キックオフミーティング	6/7-8	オンライン	—	環境整備に取り組む20団体が集まり、活動計画を発表する。
	作業部会（2回）	①8月 ②2月	対面	東京	環境整備過程のプロセス分析や加速化の方策検討などの意見交換を行い、地域プラットフォームの進捗を測る指標について議論する。
	共有会	5/16	オンライン	—	環境整備に取り組む団体の活動計画や進捗状況に関する情報の共有や意見交換を行う。
	事業形成会議	12月頃	対面	東京	環境整備等の進捗状況に関する情報共有、意見交換を行う。
	成果共有会	3/7-8	対面	東京	環境整備に取り組む20団体が集まり、成果の共有を行う。
事業化支援団体の活動の情報共有	全国事務局が実施する事業化支援に関して、管内で活動する事業化支援団体の打合せに参加し、進捗状況を把握するとともに全国事務局の求めに応じて制度設計に協力する。				
支援終了団体のフォローアップ調査	R1年度から4年度の環境整備、支援チーム派遣又は事業化支援を終了した活動団体のうち1件程度を対象に、その後の取組みの進捗についてヒアリングを行いGEOCに報告する。				

【R5年度採択団体】

全国	東北	分類		団体名	活動地域
28団体	4団体	環境整備	新規	一般社団法人ゴジョる	岩手県釜石市
			新規	西川町地域資源活用イノベーション推進協議会	山形県西川町
			継続	株式会社アースカラー	岩手県普代村及び周辺地域
		事業化支援	日承循環合同会社	山形県鶴岡市	

(4) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催【生物多様性】

概要	2022年12月に生物多様性に関する国際目標である昆明・モントリオール生物多様性枠組が採択され、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする「30by30目標」が盛り込まれた。国内では目標達成に向けて2022年4月に30by30ロードマップを公表し、2023年4月からは国内独自の制度「自然共生サイト」の運用が始まっている。森里川海の恵みは自立・分散型社会を支える基盤であり、地域の身近な自然とステークホルダーをつなぐことは地域循環共生圏の創造に資するものであると捉え、身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会を開催し、パートナーシップの促進を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 関係主体へのヒアリングと情報収集を行い、生物多様性に関心のある層やニーズを把握する。 地域の主体と連携・協働した意見交換会等を開催し、生物多様性に関する地域の関心を高める。 関係主体とのネットワークを広げ、意見交換会等の開催をきっかけに地域のパートナーシップが促進される。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
フォーラム	未定	対面	秋田県	パートナーシップ団体と連携し、地域の多様な主体を対象としたフォーラムを開催する。生物多様性に関する最新動向を学び、地域における活用について考える。
意見交換会	未定	対面	宮城県	関係主体へのヒアリングを基に、地域のニーズに合致した意見交換会を企画する。



(5) 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

概要	地域に存在する「ヒト（ステークホルダー）」、「モノ（資源）」、「カネ（金融・経済）」、「情報（ノウハウ）」を繋ぐ場を開催し、グリーンでレジリエントな社会を実現した「地域循環共生圏」のドミノを地域内に波及させるための地域内の対話の促進を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 行政や金融機関等へのヒアリングを行い、地域の状況やニーズを把握する。また事業の実施を通して関係構築に努め、次年度の事業につなげる。 地域の主体と連携・協働した情報交換会等を開催し、地域循環共生圏の視点から地域を見つめ直す対話の場を提供する。これまでEPO東北では「東北地域のネットワーク」を念頭に広域的な取り組みを展開してきたが、エリア別の対話の機会を設けることで地域の関係主体の連携・協働を促進するモデル事例を創出する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
情報交換会①	未定	対面	宮城県	事業者の脱炭素に向けた取組みを支援するNPOや地球温暖化防止活動推進センターおよび行政と連携した情報交換会を開催する。
情報交換会②	未定	対面	宮城県	
情報交換会③	未定	未定	未定	行政や金融機関等へのヒアリングを実施の上で地域のニーズや関心あるテーマについて情報収集を行い、関係主体と連携した情報交換会を企画する。
情報交換会④	未定	未定	未定	
事業検討会議	未定	オンライン	—	ステークホルダーとのネットワーク構築状況、意見交換の場の運営、連携のプロセスなどに対して情報・意見交換を行う。

(6) パートナーシップ団体情報交換会の開催【東北独自】

概要	円滑に業務を進めるために東北各県の窓口となる団体との連携・協力関係を築いており、総称して「パートナーシップ団体」と呼んでいる。パートナーシップ団体を対象に、地域循環共生圏や生物多様性及び脱炭素等をテーマとした講演及び事例紹介等を含めた情報交換会を開催し、多様な主体との連携の促進や事案の発掘等を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップ団体の活動の活性化に向けて先行事例の知見やノウハウを共有し、有益な情報交換を行うことで地域循環共生圏の実現に貢献する。 ・地域脱炭素の推進に向けた地球温暖化防止活動推進センターや中間支援団体等とEPO東北が連携・協働していく体制を構築する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
情報交換会	7月	対面	宮城県	脱炭素をテーマとした国内の事例について対談形式で学び、情報交換を行う。また、EPO東北との事業連携の在り方について意見交換を行う。
団体一覧	所在地	団体名		
	青森県	NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター		
	岩手県	NPO 法人環境パートナーシップいわて		
	宮城県	NPO 法人環境会議所東北		
		NPO 法人せんだい・みやぎNPOセンター		
		公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク		
	秋田県	NPO 法人環境あきた県民フォーラム		
		一般社団法人あきた地球環境会議		
山形県	NPO 法人環境ネットやまがた			
福島県	NPO 法人うつくしまNPOネットワーク			

(7) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化【東北独自】【みちのく薪びと祭り】

概要	持続可能な社会の実現に向け、東北の特色を生かした環境活動の促進を目的として創設したネットワークの更なる強化を目指すとともに、ネットワークを構成する団体等の活動や取組みを地域循環共生圏の創造へとつなげるため、交流会「みちのく薪びと祭り」を開催する。森林の適正な管理をしながら間伐材等をエネルギーとして活用し、資源や人、経済の地域循環に取り組む小さなモデルに焦点を当て、関係者が相互に学び合う交流の機会を設けることで参加主体の活動の活性化を図る。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薪の活用を基軸に地域の環境と社会と経済が循環する社会の在り方について考え、議論し、各地域の取組みに新たな視座を加えることで東北らしい地域循環共生圏の実現に貢献する。 ・「次世代の担い手」に焦点を当て新たなステークホルダーの巻き込みを図り、若手や学生、女性など、多様な主体の参加を得る。 ・地域循環共生圏プラットフォーム事業環境整備支援と連動性を持たせ、活動団体の取組みの推進を支援する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
みちのく薪びと祭り	9月	対面	岩手県釜石市	相互交流と学び合いを目的とし、東北内の薪に関する活動を行っている団体が一堂に会して活動の共有・情報交換・開催地の視察を行う。
キーパーソン会議	6月	対面	宮城県	「みちのく薪びと祭り」の協働による企画運営を目指して企画の方向性や参加主体の役割分担について協議する。

2. 東北地方 ESD 活動支援センター

(1) 地方活動支援企画運営委員会の開催運営等

概要	ESD の推進に取り組んできた自治体・企業の担当者、学識経験者、地方で環境保全に取り組んでいる専門家からなる委員会を設置し、年 2 回の委員会を開催する。				
委員	8 名				
委員会	開催日程	形式	開催地	内容	
	第 1 回	5 月末	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第 2 回	2 月上旬	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取
任期	3 年間（運営第 6 期 R4 ～ 6 年度）				
	【備考】 行政関係者委員については EPO 東北事業検討委員と兼任とし、任期は 1 年とする。				

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	地域の ESD 活動事例や地域の ESD の推進に役立つ情報発信をするために、地域情報を収集・整理し、全国センターが運用する Web サイト内に情報を掲載する。			
	メールマガジン	月 2 回、定期的にメールマガジンを発行して情報発信を行うとともに Web サイトの閲覧を誘導する。			
	パンフレット (電子媒体)	地域の ESD 活動実践者等による ESD の推進に資することを目的として、地域に密着した情報や事例等を掲載した地方センターのパンフレットを電子媒体で作成し Web サイト等で広報する。			
相談対応等	地域の ESD 活動実践者や実践団体等から ESD 活動を実践するに当たって相談や支援の要請があった場合は適切に対応する。				
ESD 地域 コーディネーター	学校教育関係の実践者等をコーディネーターとして配置し、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に地域の取組みを支援することにより、ESD 活動の普及に努める。				
	活動地域	氏名	備考		
	青森県	貝森毅彦氏	青森県地球温暖化防止活動推進員、元小学校校長		
	宮城県	内藤恵子氏	公益社団法人仙台コネスコ協会副会長・ESD 推進委員長、元小学校校長		
	福島県	齋藤修一氏	元只見町教育委員会教育長		
	【定例ミーティング】				
	開催日程	形式	開催地	内容	
	第 1 回	5 月	対面	仙台市内	活動内容の共有と ESD 活動の推進に向けた情報交換を行う。
	第 2 回	8 月	オンライン	—	
	第 3 回	12 月	オンライン	—	
第 4 回	3 月	対面	仙台市内		

(3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供【ESDfor2030 学び合いプロジェクト】

概要	気候変動時代のESDを促進するために、ESD推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とした学び合いの機会を提供することを目的とした「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画する。実施にあたってはESD地域コーディネーターおよび地域ESD推進拠点と連携し、地域特性を活かしたモデルプログラムの創出に取り組む。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ローカルの課題、地域資源への気候変動の影響から展開する気候変動教育プログラムを確立する。また「総合的な学習」での単発教科の展開ではなく、各関連教科と連動したモデルプログラムを創出する。 ESD地域コーディネーターと地域ESD推進拠点が連携し、地域内で継続的に展開される体制を構築しロールモデルを創出する。 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
勉強会①	未定	対面	青森県	プログラムを進める上で実施校のニーズや抱える課題に対してアプローチする、勉強会をESD地域コーディネーターと相談の上企画する。
勉強会②	未定	対面	青森県	
実践活動	未定	対面	青森県	実施校での実際の現場に出での体験や、ゲストティーチャーを招聘してのワークショップの実施等の活動を実施する。
意見交換会	12月	対面	青森県	青森県内、東北内のそれぞれの関係者が集い、プログラムの成果や課題を整理する意見交換会を実施する。
作業部会 (2回)	①未定 ②未定	対面	東京	気候変動を切り口としたESDを推進するに当たってのノウハウや課題を共有し、方策を検討するために全国センターが開催する会合に参加し議論する。

(4) 東北ESD/SDGsフォーラム

概要	ESD実践者および関心のある層がESD/SDGsについて理解を深め、実践事例を基に知見やノウハウを学ぶことで地域のESD活動の促進に貢献する。また、東北地域のESD事例を広く発信する機会と捉え、多様な主体との連携・協働による企画運営によって地域ネットワークの構築を支援する。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方におけるESD活動の実践者及び関心層に対してESD/SDGsを学ぶ機会を提供し、ESD活動の推進を支援する。 (企画内容、対象に合わせて達成目標を追加する) 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
東北ESD/SDGsフォーラム	未定	未定	未定	オンライン催事が定着して以降、開催形態や企画内容について参加者のニーズが大きく変化していることを踏まえ、関係者に意見を聴取しながら開催形態及び企画内容を検討する。

(5) 地域ESD活動推進拠点等のESD活動の支援

概要	地域ESD拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携を図ることにより、地域におけるESD活動を支援する。また、ESD活動実践者に対する情報発信や調整等を行うとともに、地域ESD拠点の登録手続きにおいては登録審査を行う全国センターに情報提供を行う。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 各事業を実施する中で活動情報の共有および地域ESD拠点間の連携を働きかけ、ESD活動を支援する。 地域ESD拠点に対し仕組みやイベント情報の提供を定期的に働きかけ、東北地方ESD活動支援センターのウェブサイトやメールマガジン、パンフレットに掲載する。 			
登録数	全国173件/東北20件			

(6) ESD 研修会【東北独自】

概要	地域からの ESD 推進の底上げと活性化を図ることを目的に、地域の ESD 実践者等を対象に、ESD 関連の有識者又は先進的実践者等による講演及び意見交換を行う研修会を開催する。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ESD 活動の実践者及び関心層に対して ESD/SDGs を学ぶ機会を提供し、ESD 活動の推進を支援する。 開催エリアにおける ESD ネットワーク構築を支援する。 (企画内容、対象に合わせて達成目標を追加する) 			
催事	開催日程	形式	開催地	内容
ESD 研修会	未定	未定	未定	地域の ESD 実践者の学びや開催エリアのステークホルダーを巻き込んだネットワーク形成に資すると判断した相談案件に応じて、地域のニーズに合わせた研修会を開催する。

(7) 全国センターとの連携協力の推進等

概要	全国センターが実施する意見交換会及び企画運営委員会に可能な限り参加する。また、全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供、ESD 推進ネットワーク活動状況調査等に積極的に協力・対応する。					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 全国センターの求めに応じて各種会合への参加、情報提供や資料作成・提供に対応する。 全国及び地方 ESD 活動支援センターの事業について積極的に情報収集を行い、取組み手法等について次年度事業の参考とする。 					
会合等	開催日程		形式	開催地	会議の目的	
	ESD 全国フォーラム		12 月	対面	東京	ESD 活動を推進する関係者が一堂に集い、最新の国際動向・国内動向・ネットワーク形成の状況を共有し、全国各地の実践事例を学ぶ機会として開催される。
	ESD 活動支援センター連絡会	第 1 回	5 月末	対面	東京	地方 ESD 活動支援センター間の連携強化と情報共有を目的に開催される。
		第 2 回	1 月末	対面	東京	
	全国協力団体意見交換会	第 1 回	未定	対面	東京	全国的なネットワークを有する団体同士の連携を深める機会として開催される。
		第 2 回	未定	対面	東京	
	全国センター企画運営委員会	第 1 回	未定	対面	東京	全国センターの事業計画及び事業報告に対する意見聴取が行われる。
第 2 回		未定	対面	東京		

運営第6期

令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）

令和5年度事業報告

【Ⅲ. 事業報告】 1. 令和5年度 事業総括

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に移行し、対面による会議・打合せが増えたものの、ハイブリッド型の会議・催事の開催およびアーカイブ配信等による動画共有の手法が定着した。対面開催を想定していても参加者からオンライン配信の希望が寄せられることも多く、ハイブリッド型の運営による事務局の準備・運営負担が増加している。また、催事では対面・オンライン共に開催日当日の集客に苦慮することが増えた。二次元コードの活用も日常化し、使用する媒体や活用のあり方は今後も工夫が必要である。

● EPO 東北

① 地域循環共生圏 PF 事業とみちのく薪びと祭りの連動

地域循環共生圏プラットフォーム事業（以下、「PF 事業」と記載）における東北ブロック中間共有会の参加対象とみちのく薪びと祭りの参加対象が重なることから、同会場で連続開催することとした。両事業を通して多様なセクターからの参加がり、持続可能な地域を念頭に各分野から多角的な情報共有と意見交換を行うことが出来た。また、PF 事業関係者にとっては EPO 東北の独自事業に参加する機会となり、EPO 東北への理解と関心を高めることができた。運営に関する負担は大きかったものの、活発な学び合いの場を醸成することができ、双方の事業に対する相乗効果が得られたと考える。

● 情報の発信

① サービスおよびシステムの変更・更新対応

配信サービスの終了に伴うメールマガジン利用サービスの変更、レンタルサーバーのバージョンアップに伴うウェブサイトのシステム更新など、年度当初に複数のサービス変更・更新の対応があったが、大きなトラブルなく移行作業に取り組んだ。

② 活動事例の発信

東北地方 ESD 活動支援センターおよび地域 ESD 拠点の活動を紹介するレポートを作成し、PDF データをウェブサイトで公開した。東北ブロックで登録している 21 拠点（2024/1/4 現在）のうち、令和5年度は約半数の 10 団体から協力を得た。令和6年度も継続して取り組み、すべての地域 ESD 拠点のレポート掲載を目指す。

各地域 ESD 拠点に適宜活用してもらうこと、地域事例の照会への対応を想定して作成しており、活用についての検証は次年度の課題とする。

● R5 年度に向けて

EPO 東北や東北地方 ESD 活動支援センターの中間支援機能に対して、環境省をはじめ複数の主体から期待が寄せられている。EPO ネットワークの中でも「カーボンニュートラル」に加え「ネイチャーポジティブ」や「サーキュラーエコノミー」等、近年注目されているテーマに基づいた情報交換が行われ、改めて誰と協働していくのか、EPO や地方 ESD 活動支援センターが果たすべき役割について議論が行われた。これまでと同様に多様なネットワークをつなぐハブ機能や、政策テーマを地域の文脈に落とし込む翻訳機能が求められる一方で、取り扱うテーマが多様化し事業が複雑化している。新しいテーマに関する情報とネットワークをつなぐためのスキルアップや、事務局体制の整備を行う必要がある。令和5年度に引き続き、地域の主体への働きかけのあり方、情報発信のあり方を含め、運営第6期の大きな課題となる。

● 東北地方 ESD 活動支援センター

① ESD 地域コーディネーターとの協働

令和4年度から取り入れた東北地方の独自取組みである「ESD 地域コーディネーター」制度について、令和5年度は1名拡充の上、事業における協働および連携の強化を試みた。コーディネーターの活躍により、地域の ESD 活動の具体的な支援や活動の実施に至っている。運用の課題については随時確認と改善を図っており、次年度以降も定期的なコミュニケーションを重ねながら協働していきたい。

② 青森市におけるモデルプログラムの実施

東北地方 ESD 活動支援センター設置当初は青森県内で ESD の認知が低く、活動の活性化が大きな課題となっていたため、関係者向けの研修会やフォーラムの開催など、ネットワークを広げて関係構築に取り組んできた経緯がある。令和5年度は ESD 地域コーディネーターとの協働によって青森市内の小中学校との連携によるモデルプログラムを実施できた。「青森」を入口に気候変動を考えるアプローチで、りんご農家やホタテ漁師の協力を得ながら地域独自の ESD 授業の創出に至った。地域視点から考える気候変動教育として、プログラムの継続と発展が期待される。



ESDfor2030 学び合いプロジェクト 勉強会① (R5/6/9)

【Ⅲ. 事業報告】 2. 事業実施一覧

東北環境パートナーシップオフィス運営業務

(1) 事業検討委員会の開催運営等

委員	8名				
委員会	開催日		形式	開催地	内容
	第1回	5/29 (月)	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第2回	2/13 (火)	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト		随時更新、期間限定アーカイブ動画の配信			
	メールマガジン		月2回配信、臨時号1回			
	その他		みちのく薪びと祭りとりまとめ資料 PDF データを事業紹介ツールとして活用			
相談対応等	相談件数		89件			
	対話の機会数		85件			
	共催事業		1件			
	後援		0件			
	協力・活動支援		7件			
	委員協力		6件			
※対話の機会数：情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等						
全国事業に関わる業務	開催日		形式	開催地	内容	
	全国 EPO 連絡会議	第1回	5/30 (火)	対面中心のハイブリット	東京都渋谷区	アウトプットや状態目標について意見交換を行い今年度の方向性を共有した。
		第2回	10/18 (水) ~ 19日 (木)		北海道網走市	EPOの機能を整理し、社会的ニーズに対してこれから果たすべき機能について意見交換を行った。
		第3回	1/23 (火) ~ 24 (水)		東京都渋谷区	次年度以降の事業運営に関する意見交換を行った。
	「協働取組」の捉え直しタスクフォース		8/4 (金)	対面	東京都渋谷区	協働取組がもたらす効果と地域の現状を共有し、進める上での課題と解決策について議論した。
	地域センターブロック会議	第1回	7/6 (木)	対面中心のハイブリット	宮城県仙台市	地球温暖化防止活動推進センター東北ブロック会議に参加し情報交換を行った。
		第2回	1/19 (金)			
	情報交換会		12/22 (金)	Web 会議	-	「サーキュラーエコノミー」と「ネイチャーポジティブ」をキーワードに外部の視点を踏まえて意見交換を行った。
	東北地方環境事務所との協働	開催日		形式	開催地	内容
		事業運営会議	第1回	4/27 (木)	対面	宮城県仙台市
第2回			6/30 (金)			
第3回			9/4 (月)			
第4回			11/27 (月)			
第5回			2/5 (月)			
開館状況		【開館日数】235日、【来場者数】418人 4月1日から開館時間を9:00～17:30に変更 (R4年度まで9:30～18:00)				
会議室の提供		【利用件数】115回、【利用者数】400人				
図書資料等の提供		【提供実績】20回、【収集資料】93件				

(3) 地域循環共生圏プラットフォーム事業に係る業務

概要	「令和5年度環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」に採択された活動団体に対して構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に応じた支援を行った。
----	---

【R5年度採択団体】東北4団体/全国28団体			
分類	団体名	活動地域	活動テーマ
環境整備	新規	一般社団法人ゴジョる	岩手県釜石市 地域資源と福祉の連携による持続可能な課題解決プラットフォーム構築
	新規	西川町地域資源活用イノベーション推進協議会	山形県西川町 西川町の地域資源活用にイノベーションを起こす！！
	継続	株式会社アースカラー	岩手県普代村及び周辺地域 デジタル地域通貨による DEEP 岩手循環経済圏構築
事業化支援	日承循環 (にっしょうじゅんかん) 合同会社	山形県鶴岡市	自然体験事業者プラットフォーム事業

1) 環境整備団体に対する伴走支援					
団体名	定期打合せ	ステークホルダーミーティング (活動団体主催)			
		開催日	形式	開催地	内容
一般社団法人ゴジョる	9回	1/27 (土)	対面	岩手県釜石市	ラベンダー獣害対策事業に巻き込みたい関係者を対象に今後に向けた場作りを行った。
西川町地域資源活用イノベーション推進協議会	4回	2/6 (火)	対面	山形県西川町	地域事業者および地域住民を対象に事業への理解と意見交換の場を設けた。
株式会社アースカラー	8回	1/30 (火)	対面	岩手県久慈市	地域事業者を対象に地域価値協創システムの理解の深化と関係構築を図った。

2) 会議等					
会議名等	開催日	形式	開催地	内容	
① EPO がブロック内の環境整備団体を対象に開催する会議					
東北ブロック中間共有会	10/10 (火)	対面	岩手県釜石市	環境整備団体間の相互交流と学び合いを目的に、活動状況と課題やノウハウを共有する意見交換を行った。	
② 全ての関係者が参加する会合 (環境整備活動団体、環境省・地方事務所、GEOC・EPO、請負者)					
キックオフミーティング	6/7 (水) ~ 8 (木)	Web 会議	—	活動のヒントや気づきを得ることを目的に、環境整備に取り組み 20 団体が一堂に会して活動発表が行われた。	
成果共有会	3/7 (木) ~ 8 (金)	対面	東京都千代田区	団体間でお互いの成果を把握し、取組みの深化を図るための意見交換と相互交流が行われた。	
③ 事務局関係者向け会議 (環境省・地方事務所、GEOC・EPO、請負者)					
共有会	5/16 (火)	Web 会議	—	事業の事務局側のキックオフとして、年間計画及び採択案件の情報を関係者で共有した。	
事業形成会議	12/8 (金)	Web 会議	—	環境整備の進捗状況に関する共有と後継事業に関する意見交換が行われた。	
④ GEOC・EPO 向け会議					
作業部会	第1回	9/11 (月)	対面	東京都	環境整備支援のポイントの抽出とアクションサイクル・モデルのブラッシュアップが行われた。
	第2回	2/9 (金)	対面	渋谷区	
⑤ 委員を対象とする会議 (傍聴)					
有識者会議	第1回	7/26 (水)	Web 会議	—	支援の方策や内容、後継事業の方向性について意見交換が行われた。
	第2回	1/23 (火)			
ワーキンググループ	第1回	8/25 (金)			R5 試行メニューと達成目標、共生圏づくりのインパクトの評価手法・指標について意見交換が行われた。
	第2回	2/19 (月)			

3) 事業化支援団体の活動の情報共有					
会議名等	開催日	形式	開催地	内容	
ヒアリング	4/20 (木)	対面	山形県 鶴岡市	事業の方向性や R5 年度の取組み内容を確認するヒアリングに同席した。	
定例ミーティング	月1回	Web 会議	—	事業の進捗を確認する定例ミーティングにオブザーブ参加し、適宜情報提供等を行った。	
意見交換合宿	7/4 (火) ～5 (水)	対面	山形県 鶴岡市	事業化支援に取り組む活動団体間の学び合いと関係づくりを目的に合宿型の意見交換会が行われた。	
意見交換会	第1回	10/27 (金)	Web 会議	—	地域プラットフォームの発展や事業推進に向けた気づきを得ることを目的に意見交換が行われた。
	第2回	3/8 (金)	対面	東京都 千代田区	

4) 支援終了団体のフォローアップ					
①フォローアップ調査：米沢市（山形県）活動年度：R3～4年度					
会議名等	開催日	形式	開催地	内容	
ヒアリング	11/18 (土)	対面	山形県 米沢市	業務の改善方策と過年度事業実施団体への継続的な支援を検討するため、取組み当時のことや現在の状況、今後の展開を確認するヒアリングを行った。	
②その他：一般社団法人 Reborn-Art Festival（宮城県）活動年度：R1～4年度					
会議名等	開催日	形式	開催地	内容	
内覧会	11/8 (水)	対面	宮城県 石巻市	石巻の食を発信する新たな拠点としてオープンした「Reborn-Art STAND」の内覧会に参加した。	



事業化支援 意見交換合宿 現地視察 (R5/7/4)



環境整備 東北ブロック中間共有会 (R5/10/10)

(4) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催【生物多様性】

概要	令和4年に「昆明・モンリオール生物多様性枠組」が採択された。同枠組では、「30by30 目標」が主要な目標の一つとして定められたほか、ビジネスにおける生物多様性の主流化等の目標が採択され、自然資本が経済活動の基盤との認識が国際的に広がっている。「30by30」「生物多様性」そして「秋田の未来」を改めて考える機会として関係者による勉強会およびシンポジウムを開催した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
勉強会	10/5 (木)	Web 会議	-	8名	生物多様性枠組の経緯や国内の認証制度である自然共生サイトの認定状況等について関係者間で勉強会を行った。
シンポジウム 生物多様性と秋田の未来	12/23(土)	対面	秋田県 秋田市	69名	「30by30」の理解を深め、日本や世界各国、秋田県の事例等を通して豊かな生物多様性を未来につなげる重要性を考えるシンポジウムを開催した。

(5) 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

概要	地域に存在する「ヒト（ステークホルダー）」、「モノ（資源）」、「カネ（金融・経済）」「情報（ノウハウ）」を繋ぐ場を開催し、グリーンでレジリエントな社会を実現した「地域循環共生圏」のドミノを地域内に波及させるため、地域内での対話の促進を図った。				
①情報交換会等					
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
フォーラム 気候危機時代を生き抜く サステナブル経営	11/22(水)	対面	宮城県 仙台市	35名	サステナブル経営に関する背景や国際社会の動向、国内事例について学び、気候危機による災害リスクをどう捉えたらよいかを考えるフォーラムを開催した。
	【アーカイブ配信】 12/7(木)～2/29(木)			視聴回数 109名	
セミナー あおもり中小企業のための ESG金融・脱炭素経営 に関するセミナー in 青森	1/16(火)	対面	青森県 青森市	34名	ESG金融や脱炭素経営、SDGsへの取組みを地域の事業者はどのように受け止め対応すべきかをテーマに講演と地域事例の紹介を行った。
セミナー 企業としてSDGsにどう 向き合うべきか	2/17(土)	対面	宮城県 仙台市	50名	仙台ユネスコ協会と協働し、SDGs、脱炭素をキーワードとした企業・法人向けセミナーを開催した。
金融機関との 情報交換	10/5(木)	対面	宮城県 仙台市	5名	ESG金融やサステナブル経営、脱炭素経営に関する地域動向等について情報交換を行った。
	10/6(金)	対面	宮城県 仙台市	5名	
②過年度事業フォローアップ					
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
セミナー あおもり中小企業のための ESG金融・脱炭素経営 に関するセミナー in 八戸	10/26(木)	対面	青森県 八戸市	57名	R4年度に青森市、弘前市で実施したセミナーを八戸市で開催する運びとなり、過年度事業のフォローアップとして支援した。
③事業検討会議（GEOC開催）					
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
事業検討会議	2/29(木)	Web会議	-		各地方で進めてきた取組みについてねらいや実施内容、成果共有が行われた。

(6) パートナーシップ団体情報交換会の開催【東北独自】

概要	地域脱炭素の実現に向けて多様なセクターが連携して現場で具体的なアクションを起こしていくことが求められている。このためパートナーシップ団体を対象に勉強の機会を設け、多様な主体との連携促進や事案の発掘に向けて意見交換を行った。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
情報交換会	7/6(木)	ハイブリット 会議	宮城県 仙台市	30名	地域地球温暖化防止活動推進センターに求められる役割やEPO東北との事業連携について意見交換を行った。

(7) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化【東北独自】【みちのく薪びと祭り】

概要	持続可能な社会の実現に向け、東北の特色を生かした環境活動の促進を目的として創設したネットワークの更なる強化を目指すとともに、ネットワークを構成する団体等の活動や取組みを地域循環共生圏の創造へとつなげるため、交流会「みちのく薪びと祭り」を開催した。地域循環共生圏の考えから、環境とその他の地域課題を複合的に解決する取組みをテーマとした。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
キーパーソン 会議	7/14(金)	Web会議	-	16名	「みちのく薪びと祭り」の協働による企画運営を目指して企画の方向性や参加主体の役割分担について協議した。
みちのく 薪びと祭り	10/9 (月祝)～ 10(火)	対面	岩手県 釜石市	77名	相互交流と学び合いを目的とし、東北内の薪に関する活動を行っている団体が一堂に会して活動の共有・情報交換・開催地の視察を行った。

東北地方 ESD 活動支援センター運営業務

(1) 地方活動支援企画運営委員会の開催運営等

委員	8名				
委員会	開催日	形式	開催地	内容	
	第1回	5/29(月)	対面を中心とした	仙台市内	事業計画に対する意見聴取
	第2回	2/13(火)	ハイブリット形式	仙台市内	事業報告及び次年度の展望に対する意見聴取

(2) 基本業務

情報発信	Web サイト	随時更新、コンテンツの整理(「東北の ESD 事例紹介」を追記、PDF パンフレットを掲載)		
	メールマガジン	月2回配信、臨時号1回		
	パンフレット	東北地方 ESD 活動支援センター及び地域 ESD 活動推進拠点の活動を紹介するパンフレットを作成した。 【PDF パンフレット】掲載：10 団体 【冊子】800 部		
相談対応等	相談件数	25 件		
	対話の機会数	23 件		
	共催事業	5 件		
	後援	6 件		
	協力・活動支援	2 件		
	その他(会議参加)	2 件		

ESD 地域 コーディネーター	学校教育関係の実践者等をコーディネーターとして配置し、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に地域の取組みを支援することにより、ESD 活動の普及に努めた。				
	活動地域	氏名	備考		
	青森県	貝森毅彦氏	青森県地球温暖化防止活動推進員、元小学校校長		
	宮城県	内藤恵子氏	公益社団法人仙台ユネスコ協会副会長・ESD 推進委員長、元小学校校長		
	福島県	齋藤修一氏	元只見町教育委員会教育長		
	【定例ミーティング】				
		開催日	形式	開催地	内容
	第1回	5/30(火)	対面	宮城県 仙台市	キックオフミーティングを行った。
	第2回	9/14(木)	Web 会議	—	活動内容の共有と ESD 活動の推進に向けた情報交換を行った。
	第3回	11/30(木)	Web 会議	—	



ESD 地域コーディネーターによる授業 (R5/4/22)



佐賀県地球温暖化防止活動推進センターとの環境教育意見交換会 (R5/11/30)

(3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供【ESDfor2030 学び合いプロジェクト】

概要	気候変動を切り口とした学び合いの機会を提供することを目的に「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画した。実施にあたっては ESD 地域コーディネーター及び地域 ESD 推進拠点と連携し、地域特性を活かしたモデルプログラムの創出に取り組んだ。				
催事	開催日	形式	開催地	内容	
勉強会	第 1 回	6/9 (金)	対面	青森県 青森市	【対象】青森市立堤小学校 6 学年 青森市内のリンゴ農家、ホタテ漁師、種苗店を招き、気候変動の影響について児童から質問する形式で授業を行った。
	第 2 回	7/11 (火)	対面	青森県 青森市	【対象】青森市立堤小学校 6 学年 青森地方気象台の方を招き、地球温暖化のメカニズムや青森県における気温の変化と影響についてお話をいただいた。
	第 3 回	12/4 (月)	対面	青森県 青森市	【対象】青森市立千刈小学校 6 学年 青森大学の留学生との異文化交流会を実施した。児童が調べたことを共有し意見交換を行った。
	第 4 回	12/14 (木)	ハイブリット 会議	青森県 青森市	【対象】青森市立堤小学校・千刈小学校 教員 気候変動教育の概要や必要性、実践事例を講師からお話いただき、各校の教員の学びを深めた。
実践活動	2/19 (月)	Web 会議	-	【参加校】青森市立千刈小学校、青森市立堤小学校 各学校の取り組みを児童が発表し、意見交換を行った。	
意見交換会	3/4 (月)	ハイブリット 会議	-	プロジェクトメンバーと事業の成果及び課題について意見交換を行った。	
作業部会	第 1 回	6/21 (水)	対面	東京都 渋谷区	各地方で取り組むプロジェクトの整理・分析をし、全体のコンセプトや戦略について議論を行った。
	第 2 回	11/15 (水)	対面	東京都 渋谷区	各地方のプロジェクトの進捗を共有し、今年度の取りまとめについて議論を行った。
活動の報告	12/9 (土)	対面	東京都 渋谷区	ESD 推進ネットワーク全国フォーラムで活動報告を行った。	

(4) 東北 ESD/SDGs フォーラムの開催

概要	ESD 実践者及び関心のある層が ESD/SDGs について理解を深め、実践事例を基に知見やノウハウを学ぶことで地域の ESD 活動の促進に貢献することを目的にフォーラムを開催した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
東北 ESD/SDGs フォーラム	12/16(土)	ハイブリット 会議	宮城県 仙台市	58 名	ESD / ユネスコスクール・東北コンソーシアムと連携し、東北 6 県からの事例紹介と東北内外の講師によるパネルディスカッションを行った。
	【アーカイブ配信】 R6/1/16(火)～R6/2/16(金)			視聴回数 47 回	

(5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援

概要	地域 ESD 拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携を図ることにより、地域における ESD 活動を支援した。また、ESD 活動実践者に対する情報発信や調整等を行うとともに、地域 ESD 拠点の登録手続きにおいては登録審査を行う全国センターに情報提供を行った。
登録数	東北 21 件 (前年比+1) / 全国 182 件 (前年比+9)

(6) ESD 研修会【東北独自】

概要	地域からの ESD 推進の底上げと活性化を図ることを目的とし、地域の ESD 実践者等を対象に、ESD 関連の有識者又は先進的実践者による研修会を開催した。				
催事	開催日	形式	開催地	参加	内容
市民のための ESD 研修会 中田西部町内会連合会環境講座	11/19(日)	対面	宮城県仙台市	47名	2名の講師を迎え、気候変動による影響を学び行動変容を促す研修会を行った。

(7) 全国センターとの連携協力の推進等

概要	全国センターが実施する意見交換会及び企画運営委員会に参加した。また、全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供、ESD 推進ネットワーク活動状況調査等に積極的に協力・対応した。				
催事	開催日	形式	開催地	内容	
ESD 全国フォーラム	12/9(土)	対面	東京都渋谷区	ESD に関する最新の動向を共有し、各地の実践事例を学ぶ機会としてフォーラムが開催された。	
ESD 活動支援センター連絡会	第1回	5/31(水)	対面中心のハイブリット	東京都渋谷区	各センターの事業予定の共有と情報交換、気候変動教育に関する共有と議論が行われた。
	第2回	1/24(水)			学び合いプロジェクトの実施状況を共有し、次年度の方向性について議論が行われた。
全国協力団体意見交換会	第1回	9/13(水)	対面	東京都渋谷区	全国的なネットワークを有する団体同士の連携を深めるため、実践事例の共有と課題や戦略について議論が行われた。
	第2回	12/9(土)			ESD 全国フォーラムとの一体開催で行われた。
全国センター企画運営委員会	第1回	6/27(火)	Web会議	—	全国センターの事業計画及び事業報告に対する意見聴取が行われる企画運営委員会を傍聴した。
	第2回	2/27(火)	Web会議	—	



地球温暖化に挑む海洋教育プログラム (R5/8/5)



公衆資料館連携フォーラム (R5/12/16-17)



気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会 (R5/6/9)



大仙市立大曲南中学校オンライン交流授業 (R5/10/12)



学び合いプロジェクト打合せ (R5/9/20)

その他 企業等との協働事業

(1) (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

概要	環境再生保全機構地球環境基金との協定に基づき、情報共有や意見交換、事業連携を行った。地球環境基金は1993年の創設から30年が経過する。地域の課題や活動実態の把握、今後の支援策の検討が行われており、本年度は東北地区で意見交換の場が設けられた。				
会議等	開催日	形式	開催地	参加	内容
地球環境基金主催 EPO 連絡会	7/21 (金)	対面	神奈川県 川崎市	—	2024年度助成金の募集や地球環境基金30周年事業について情報共有と意見交換が行われた。
東北地区高校生 SDGs セミナー	7/27 (木)	ハイブリット 会議	宮城県 仙台市	—	東北6県の高校14校が参加し、基調講演とワークショップ型の意見交換が行われた。
2024年度地球環境基金助成金説明会 (東北地区)	10/31 (火)	ハイブリット 会議	宮城県 仙台市	24名	地球環境基金の概要、助成メニューの紹介、地域循環共生圏メニュー(特別助成)助成団体からの話題提供を行った。
ステークホルダー ミーティング (東北地区)	12/4 (月)	対面	宮城県 仙台市	14名	中間支援組織の視点から地域のNPO活動の状況について、活動団体の視点から活動の課題について共有し、意見交換を行った。

(2) 青森県 令和5年度環境配慮行動拡大モデル事業

概要	環境問題に関心の薄い県民に関心を持ってもらい、環境配慮行動を実践してもらうためには動機づけが必要であるとの考えのもと、青森県が企画を公募してモデル事業を実施した。EPO東北は企画の前後に行われたワークショップ及びミーティングのコーディネート業務を担った。	
対応期間	8月～12月	
会議等	①ワークショップ(企画実施前) ②アフターミーティング(企画実施後)	
実施団体		
NPO 法人 ACTY (八戸市)	漁師さんと海で遊ぼう～磯遊びとウニのからむき体験から学ぶ自然環境～	
ふるさとの家保存会 (五戸町)	築200年の古民家で、楽しみながら、持続可能な地域づくりと暮らしをともに学び、体験しよう!	
NPO 法人ジャズネットワーク (弘前市)	リサイクル楽器でエコジャズコンサート～作って、遊んで、リサイクル～	

(3) マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト

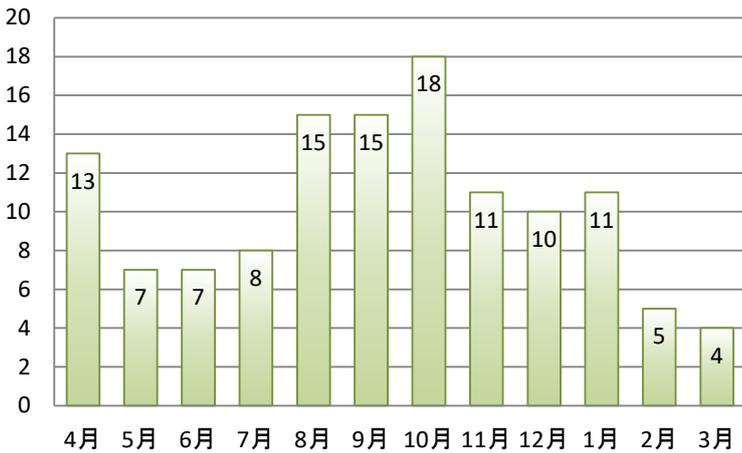
概要	地球環境基金の助成を受けて(一社)あきた地球環境会議が実施するプログラムで、サバ州と日本の高校生を対象に環境リーダーを育成することを目指し、プラスチックごみに関する現地調査及び啓発、海洋保全をテーマとした環境教育が行われた。EPO東北は会議構成員として参画し、現地プログラムに対する運営協力を行った。
渡航期間	2023年10月26日(木)～11月2日(木)
現地プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト MOU 調印式 ・カユマダンゴミ処理場視察 ・ゴミ収集調査(コタキナバルウエットランドセンター、ダラウ村、コムギ村) ・サバ州側連携先学校調査(セントルイス中学校、ステラ・マリス高校) ・表敬訪問(サバ州環境局、コタキナバル市役所環境・ゴミセクション課、在コタキナバル日本領事館、サバ州生物多様性センター)

【Ⅲ. 事業報告】 3. 出張・外出のべ日数

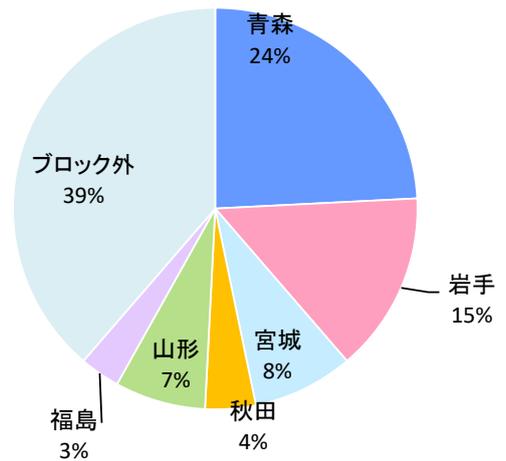
Web会議及びハイブリッド形式による会議・催事の開催要望が増え、状況に応じて開催形式を選択しながら運営にあたった。EPOネットワークおよびESD推進ネットワークでは対面形式の会合が増え、東北ブロック外への上出張件数は増加傾向にある。業務軽減と効率化の観点からオンラインの活用を推進しており、ブロック内では地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業やESDfor2030学び合いプロジェクトなど、1年間を通して地域と関わる案件のある地域への訪問数が多かった。

①出張・外出のべ日数 のべ124日

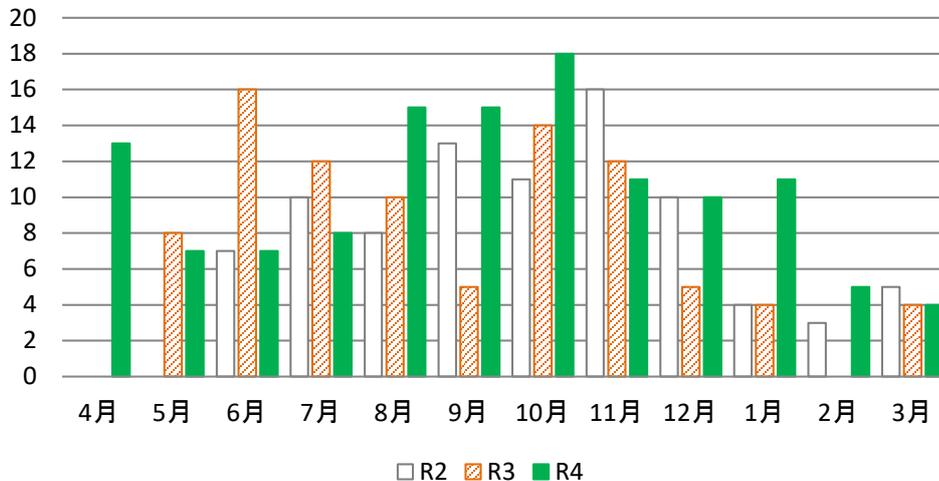
【月別のべ出張・外出】



【地域別訪問状況】



【3年間における比較】



(事業視察) 全国地域エネルギーサミット in ながはま (R5/9/29)



いたやなぎ地活プランニング ヒアリング (R5/12/15)

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告 (1)EPO 東北業務

1) 運営

①事業検討委員会の開催運営（仕様書番号 4-（1）-ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	新妻弘明	東北大学名誉 教授、 日本 EIMY 研究所所長
副委員長	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部国際教育領域 教授、ESD/ コネスコスクール・東 北コンソーシアム 運営委員長
委員	小幡秀樹	(株) SKホールディングス 人事広報部 部長
	藤公晴	青森大学社会学部 教授、 青森大学 SDGs 研究センター長
	富山順子	NPO 法人 あきたパートナーシップ 理事長
	渡部昌俊	ふくしま薪ネット
	田口好信	秋田県生活環境部温暖化対策課 課長
	遠藤和之	山形県環境エネルギー部環境企画課 課長



第 1 回事業検討委員会（R5/5/29）

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 1 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会

開催日	R5/5/29（月）
形式	対面中心のハイブリット
会場	フォレスト仙台 2 階 第 5・第 6 会議室 （宮城県仙台市）
参加者	19 名（委員 6 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ① R5 年度事業計画について ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画 運営委員会 ① R5 年度事業計画について ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性について、生物の事だけでなく地域の問題も考えることを意識して進めてほしい。 地域リソースの発掘は継続して取り組まなければいけない。5 年後 10 年後を見据えて取り組みを進めてほしい。 薪びと祭りが 2 巡目に入っているのは大きな実績だ。背景に東日本大震災がある点が他にはないプログラムになっている。 学生の意識は確実に高まっている。事業として企業と学生が連携できるかについて今後も意見交換をしたい。 コロナの影響もあり環境教育や植林などの自然体験ができなくなった。市民や子どもが関わるためにはコーディネーターや地域のリーダーが大切である。

第 2 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 2 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会

開催日	R6/2/13（火）
形式	対面中心のハイブリット
会場	仙都会館 会議室 4F（宮城県仙台市）
参加者	27 名（委員 6 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 5 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企画 運営委員会 ①令和 5 年度事業報告 ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援の中に協働が出てこなければならない。中間支援の立ち位置についてはぜひ議論をしてほしい。 みちのく薪びと祭りは毎年開催地と主催団体が異なり、EPO 東北が主催団体を支援する形がとても良い手法だと思う。中間支援の理想の形ではないだろうか。 すべてのニーズに応えることはできないが、EPO 東北は能動的に事業を仕掛けている印象を持っている。自信を持って取り組んでほしい。 金融機関から見た環境の世界の視点の中に活動のヒントがあるのではないかと。 金融機関は窓口で ESG や脱炭素に関するメリットとデメリットをお伝えする立場にいると思う。この観点から EPO 東北も何らか連携の糸口があるのではないだろうか。

2) 基本業務

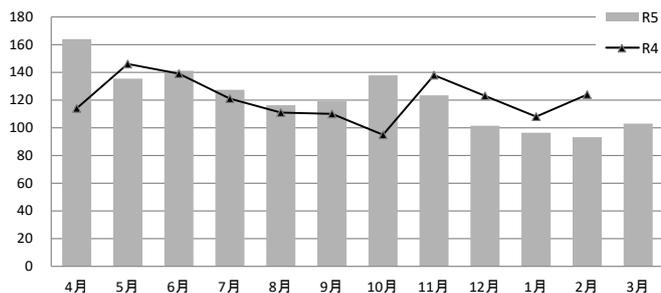
①ウェブサイト等を活用した情報発信、PR（仕様書番号 4-（1）-イ-（ア））

●情報収集

脱炭素や生物多様性などをテーマに各所で新たな動きが出てきていることから、最新情報やニーズ把握のために積極的な情報収集に取り組むとともに、適宜関係者へのヒアリングを行った。得られた情報をもとに各事業の企画を行った。

ウェブサイト

ウェブサイトページビュー数 1日平均 121.6件



●情報発信

ウェブサイト及びメールマガジンを活用し、環境活動やESD、SDGsに関する情報の他、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。また主催事業においては事前収録型の動画配信など、新しいスタイルの発信の試行に取り組んだ。

メールマガジン

タイトル	東北えぼめーる通信	
内容	(1)EPO 東北からのお知らせ (2) 東北地方 ESD 活動支援センターからの お知らせ (3) 環境省からのお知らせ (4) 助成金・募集情報	
配信	月2回、臨時号(12/6)	
登録者数	986名(前年比-216名)(前年1,202名)	
	【備考】	
	新規登録	26名
	登録解除	13名
	配信エラーによる削除	229名

②相談対応、対話の場作り及び過去案件のフォローアップ（仕様書番号 4-（1）-イ-（イ））

共催

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	12/9	第7回日本環境教育学会東北支部大会 東北地区環境教育研究・活動発表会	日本環境教育学会東北支部	宮城県 仙台市

後援 なし

協力

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	7/27	<全国ユース環境ネットワーク> 東北地区高校生SDGsセミナー2023夏 「生物多様性とSDGs～高校生同士のSDGs 意見交換会」	独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局	宮城県 仙台市
2	8/31	地域脱炭素ネットワーキングイベント	環境省	東京都 千代田区
3	11/9	脱炭素コミュニケーション養成研修会	(一社)日本自動車販売協会連合会山形県支部、 山形県地球温暖化防止活動推進センター	山形県 山形市
4	12/16 ～17	第9回公害資料館連携フォーラム in 福島	公害資料館ネットワーク、第9回公害資料館 連携フォーラム in 福島実行委員会	福島県 福島市



地域脱炭素ネットワーキングイベント (R5/8/31)



地域脱炭素ネットワーキングイベント マッチング会 (R5/8/31)

活動支援

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	4/22	あらためて学ぶ～SDGs 基礎講座～	仙台市たまきさんサロン	宮城県 仙台市
2	8/4	令和5年度地球温暖化防止活動推進員 フォローアップ研修	NPO 法人環境ネットやまがた	山形県 新庄市
3	9/26	CO2削減に関するアイデア実践コンテスト 交流会	秋田県生活環境部温暖化対策課	秋田県 秋田市

委員協力

No.	主催	会議名
1	宮城県環境生活部環境政策課	みやぎゼロカーボンチャレンジ 2050 県民会議
2	宮城県自然保護課	宮城県自然環境保全審議会
3	リプルンふくしま	リプルンふくしま情報発信拠点運営委員会
4	(一社) あきた地球環境会議	あきた市脱炭素プラットフォーム設立準備委員会
5	(一社) あきた地球環境会議	マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト
6	秋田市地球温暖化防止活動推進センター	あきた脱炭素ナッジ Project (令和5年度環境省地球温暖化防止活動推進事業)

その他相談対応

- ・企画への助言
 - ・講師紹介
 - ・広報協力
 - ・情報提供、事例紹介
- 等
- 相談対応件数 **89 件**
- 対話の機会数 **85 件**

スタッフ研修

No.	開催日	内容
1	4/13	EPO 中部 情報交換
2	4/24-25	EPO 北海道 情報交換
3	5/18-19	花巻地域木質バイオマス視察研修 ・富士大学バイオチップボイラー見学 ・(社福) 銀河の里バイオシステム見学



脱炭素コミュニケーター養成研修会 (R5/11/9)



仙台市たまきさんサロン講座 (R5/4/22)



スタッフ研修 花巻地域木質バイオマス視察研修 (R5/5/18-19)



スタッフ研修 花巻地域木質バイオマス視察研修 (R5/5/18-19)

③全国事業に関わる業務（仕様書番号 4-（1）-イ-（ウ））

③-1. 全国 EPO 連絡会議

催事名	第 1 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R5/5/30（火）
開催形式	対面中心のハイブリッド
会場	ふれあい貸し会議室（東京都渋谷区）
内容	(1) EPO プロジェクト業務ごとの方向性 (2) R6 年度以降に向けた共生圏 PF 後継事業の方向性 (3) 今年度の EPO ネット会合の方向性 (4) 今年度の外部連携の方向性 (5) 今年度の本省計画について

催事名	第 3 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R6/1/23（火）～24（水）
開催形式	対面中心のハイブリッド
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
内容	(1) 今年度のまとめ、来年度への展望 (2) 令和 6 年度事業の予定 (3) 令和 6 年度に向けた地球環境基金との連携 (4) 令和 6 年度に向けたその他外部連携

催事名	第 2 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R5/10/18（水）～19（木）
開催形式	対面中心のハイブリッド
会場	オホーツク・文化交流センター「エコセンター 2000」（北海道網走市）
内容	グループディスカッション (1) EPO ネットとしてこれまで果たしてきた機能について (2) 社会的ニーズに対して EPO がこれから果たすべき機能について (3) 共生圏 PF 後継事業の設計について



第 2 回全国 EPO 連絡会議 EPO 受託者会議（R5/10/19）

③-2. 「協働取組」捉え直しタスクフォース

催事名	促進法の基本方針見直しを見据えた「協働取組」の捉え直しタスクフォース
開催日	R5/8/4（金）
開催形式	対面
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
内容	(1) タスクフォースの前提確認 (2) グループディスカッション ・協働取組がもたらす変容の連鎖 ・協働取組を進める上での課題 ・協働取組を進める上での課題の解決策



「協働取組」捉え直しタスクフォース資料より

③-3. 地球温暖化防止活動推進センター北海道・東北ブロック会議

催事名	第 1 回北海道・東北ブロック会議
開催日	R5/7/6（木）
開催形式	ハイブリッド
会場	TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口 6D（宮城県仙台市）
内容	(1) 話題提供 地方環境事務所、自治体より事業共有 (2) 本年度事業予定について 地域センターより

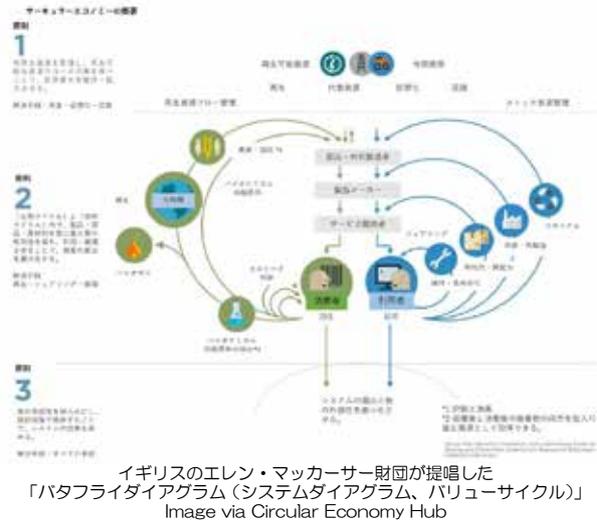
催事名	第 2 回北海道・東北ブロック会議
開催日	R6/1/19（金）
開催形式	ハイブリッド
会場	TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口（宮城県仙台市）
内容	(1) 福島県環境共生課より情報提供 (2) 地域センター、自治体等からの質疑応答 (3) 中間支援機能に関する意見交換



第 2 回北海道・東北ブロック会議（R6/1/19）

④地方 EPO ネットワークとの情報交換会（仕様書番号 4-（1）-イ-（工））

催事名	情報共有会
開催日	R5/12/22（金）
開催形式	Web 会議
内容	(1) 話題提供 「サーキュラー・エコノミーをあらためて理解する」 石井雅章氏（神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部教授） (2) 話題提供 「小さな林業大きな未来『自伐型林業』」 上垣喜寛氏（自伐型林業推進協会 事務局長） (3) 意見交換



⑤東北地方環境事務所との協働（仕様書番号 6）

東北地方環境事務所と業務の進捗について日常的に報告・連絡・相談と定期的な打合せを行い、協働による EPO 東北事業の円滑な運営に努めた。

催事名	事業運営会議
開催日	第 1 回 R5/4/27（木）
	第 2 回 R5/6/30（金）
	第 3 回 R5/9/4（月）
	第 4 回 R5/11/27（月）
	第 5 回 R6/2/5（月）
開催形式	対面
場所	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	東北地方環境事務所、（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、EPO 東北
内容	①事業の進捗確認 ②意見交換



第 3 回事業運営会議（R5/9/4）

⑥施設の維持・管理（仕様書番号 4-（1）-イ-（オ））

開館状況	開館日数	235 日
	来場者数	418 人
会議スペースの提供	利用件数	115 回
	利用者数	400 人
図書資料等の提供	提供実績	20 回
	収集資料	93 件

3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

①地域循環共生圏プラットフォーム事業に係る業務（仕様書番号 4-（1）-ウ-（ア）～（カ））

●事業概要

「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」では地域循環共生圏の創造に向け、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」等の環境整備に取り組む団体を公募し、採択された活動団体をブロックごとに地方EPOが支援を行う。地域の実情に応じた地域循環共生圏の創造に活動団体とともに取り組み、支援の在り方や効果を測る指標等の検討を実践的に行い、その結果を基に、全国で地域循環共生圏の創造を強力に推進する「地域循環共生圏づくりプラットフォーム」を構築することを目的としている。

採択：28 団体			
分類		全体	東北
環境整備	新規	10 団体	2 団体
	継続	10 団体	1 団体
事業化支援		8 団体	1 団体

【環境整備】

地域循環共生圏の創造に向け、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」の取り組みを実施する。

【事業化支援】

R元年度からR4年度に選定された活動団体のうち、地域の構想が策定されステークホルダーの組織化等の環境整備が十分整ったと環境省が認めた活動団体について、より具体的な事業計画を策定しローカルSDGsビジネスを具体化するため、各分野の専門家からなる支援チームの形成・現地派遣を実施する。

【関係主体とそれぞれの役割】

区分	主体・組織		役割
活動団体	環境整備活動団体		<ul style="list-style-type: none"> 環境整備に取り組む EPOと月1回のコンタクト 成果物4点の作成 会議への出席（年度当初のヒアリング、キックオフ、中間共有会、成果共有会） ステークホルダーミーティングの開催（1回）
	事業化支援団体		<ul style="list-style-type: none"> より具体的な事業計画を策定し、ローカルSDGs（地域循環共生圏）事業の具体に取り組む
	（支援終了団体）		<ul style="list-style-type: none"> フォローアップヒアリングの対象
事務局	地方事務局	地方環境事務所 EPO	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備支援 年度当初ヒアリングの実施と支援計画の作成 中間共有会の開催 GEOC等が主催する関連会合への参加 過年度活動団体のフォローアップ調査
	全国事務局	環境省地域政策課 請負者	<ul style="list-style-type: none"> 事業化支援活動団体の支援 地域循環共生圏づくり事務局の設置と運営（Web相談会等） 全国プラットフォームの運営と改善 会議、イベントの開催（有識者会議、あり方検討WG、フォーラム） 地域循環共生圏創造の手引きの更新 地方事務局、GEOCとの連携
		環境省民間活動支援室 環境省地域政策課 GEOC	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備支援の取りまとめ 会議、イベントの開催（共有会、キックオフ、アド委員会、作業部会、成果共有会） 地方事務局、請負者との連携

（参考）事業における用語の定義等

●地域循環共生圏（ローカルSDGs）の三原則

- ①環境・社会・経済課題の同時解決 ②地域の主体性 ③協働

●地域プラットフォームとは

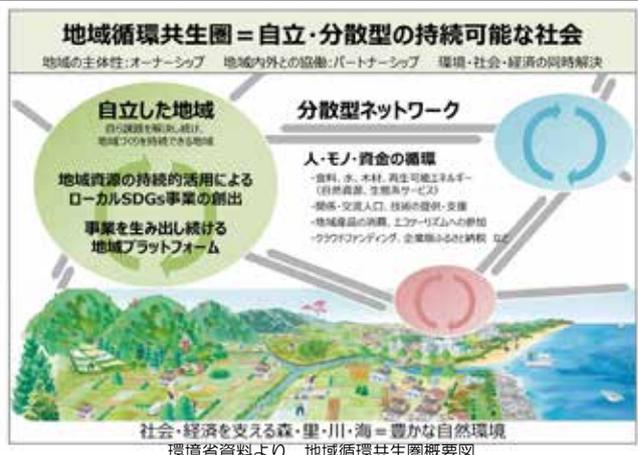
ローカルSDGs事業が次々に生まれ育つ場

機能1：事業主体（候補）を発掘する

機能2：事業主体（候補）を応援して事業化に導く

●ステークホルダーミーティング

地域循環共生圏創造のため、地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う場。活動団体が企画・主催する。



●事業プロセス

	事務局の会議等	環境整備			事業化支援	支援終了団体
		【新規】		【継続】	日承循環合同会社	
		(一社)ゴジョウ	西川町地域資源活用イノベーション推進協議会	(株)アースカラー		
4月	支援計画作成	ヒアリング	ヒアリング	R5 事業打合せ	ヒアリング	
5月	共有会				定例打合せ (月1回)	
6月	キックオフミーティング 6/7-8					
7月	(有識者会議)	打合せ		打合せ	意見交換合宿 7/4-5	
8月	(ワーキンググループ)					
9月	作業部会	打合せ	打合せ	打合せ		
10月	東北ブロック中間共有会 10/10				参加 意見交換会 10/27	(一社) Reborn-Art Festival (RAF)
11月		打合せ	打合せ	打合せ		RAF 内覧会 米沢市ヒアリング
12月	事業形成会議					
1月	(有識者会議)	打合せ ステークホルダーミーティング	打合せ ステークホルダーミーティング	打合せ ステークホルダーミーティング	ネットワーク発足の会	
2月	作業部会 (ワーキンググループ)	打合せ	打合せ	打合せ		
3月	成果共有会 3/7-8				意見交換会 3/8	

【構想策定の4つの手順と成果物】

4つの手順	成果物
①話を聞きに行く	ステークホルダーリスト
②地域のコンセプトを描く	コンセプトペーパー
③事業のストーリーを語る	事業のタネシート
④皆で目指す目標を立てる	目標シート



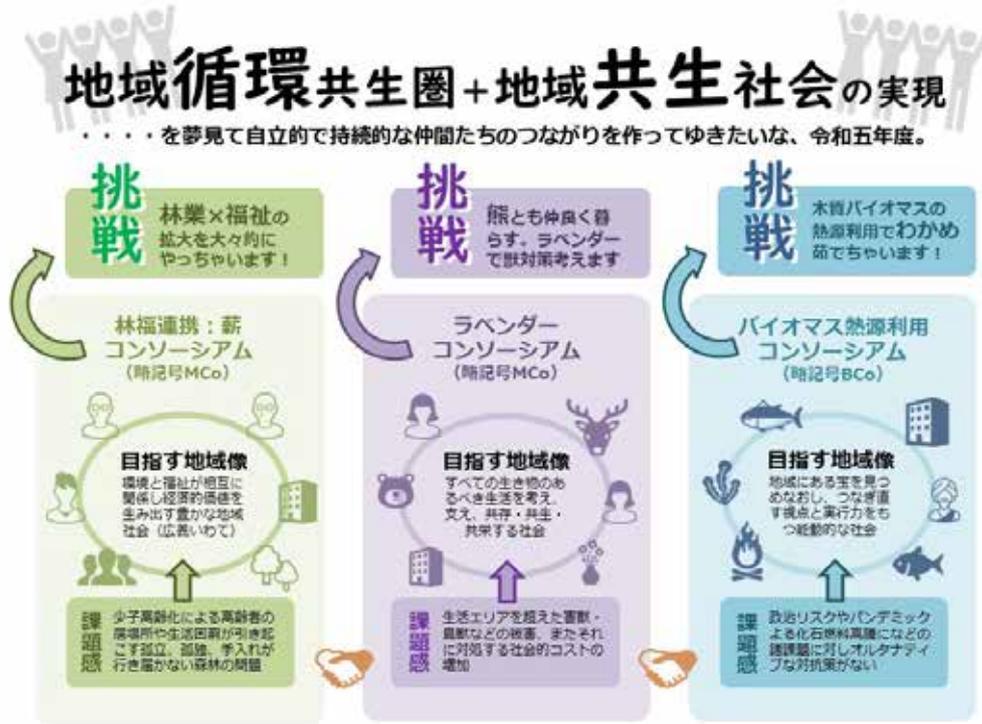
環境省資料より 地域循環共生圏の三原則

① -1. 環境整備支援<<新規>>一般社団法人ゴジヨる

【活動地域】岩手県釜石市

【テーマ】地域資源と福祉の連携による持続可能な課題解決プラットフォーム構築

【活動概要】



【ステークホルダーミーティング】

催事名	人と動物が共に生きる里山を目指して“ともさとプロジェクト”キックオフミーティング
開催日	R6/1/27 (土)
開催形式	対面
会場	釜石情報交流センター (岩手県釜石市)
参加対象	<ul style="list-style-type: none"> ローカル SDGs や環境に関心のある住民 獣害対策や森林保全に関わっている方 SDGs や ESD に関心のある高校生、大学生
内容	<ol style="list-style-type: none"> ミニレクチャー「ローカル SDGs と釜石」 話題提供「クマの生態と獣害について」 グループワーク
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> 企画への助言、提案 ワークショップのグラフィックレコーディング



林福連携事業「ゴジヨるの薪」



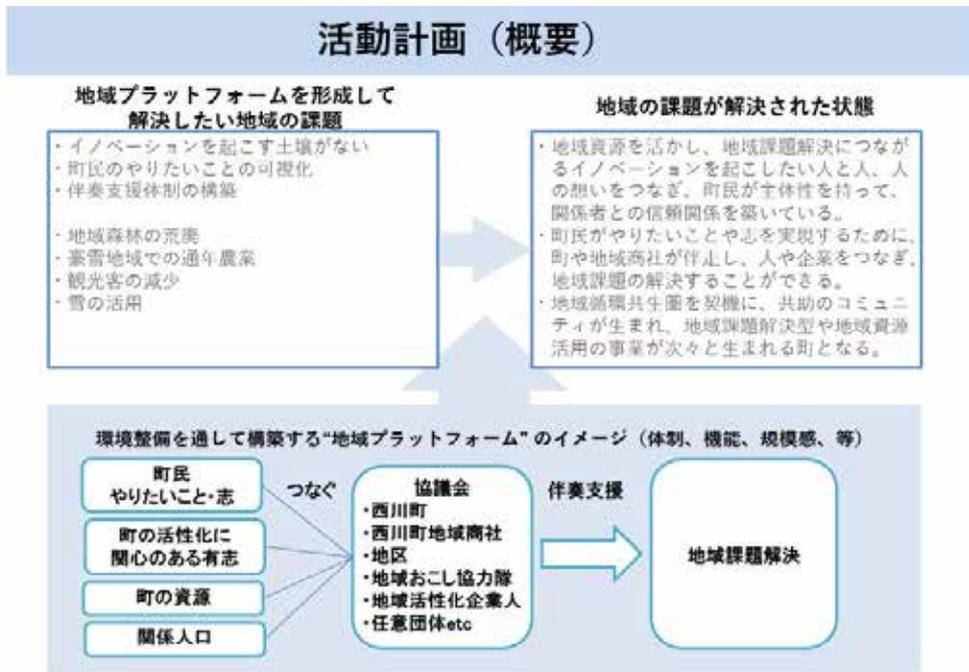
“ともさとプロジェクト”キックオフミーティング (R6/1/27)

① -2. 環境整備支援≪新規≫西川町地域資源活用イノベーション推進協議会

【活動地域】山形県西川町

【テーマ】西川町の地域資源活用にイノベーションを起こす！！

【活動概要】



3

【ステークホルダーミーティング】

催事名	ステークホルダーミーティング (関係者共有会)
開催日	R6/2/6 (火)
開催形式	対面
会場	本道寺地区集会センター (山形県西川町)
参加対象	・本道寺地区役員・地区民 ・森林組合、自伐林家 ・NTT 東日本、NTT アグリテクノロジー
内容	(1) 全体計画の説明 (2) 木質バイオマス事業の進捗状況 (3) 意見交換
支援内容	・地域ビジョン (マンダラ) の確認、助言



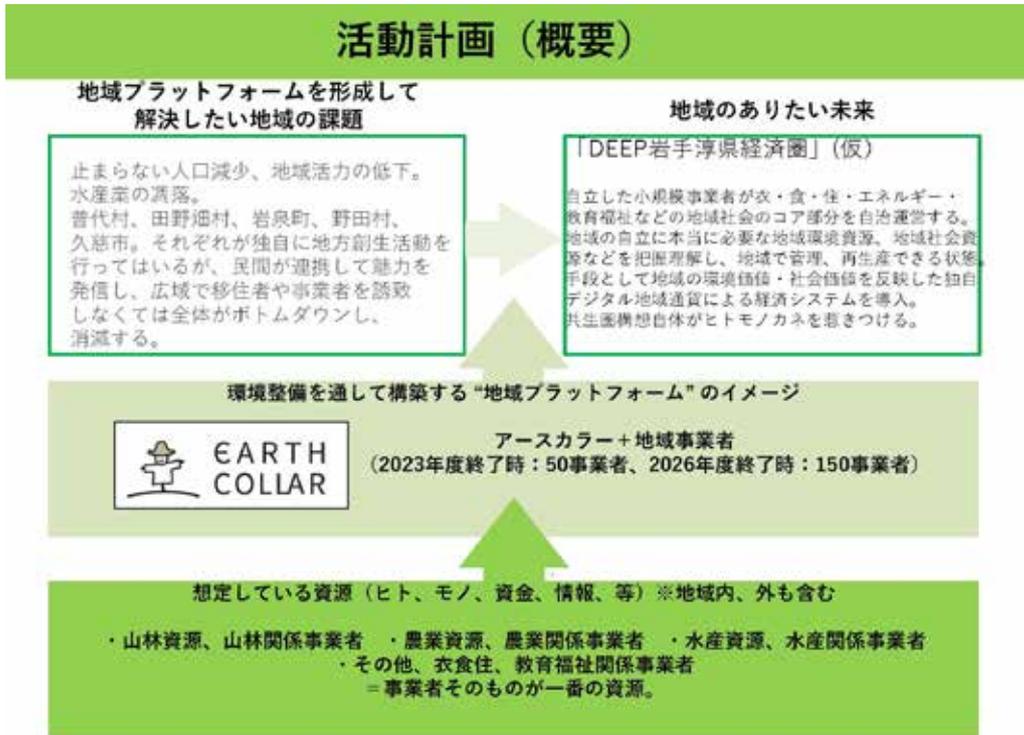
ステークホルダーミーティング (R6/2/6)



ステークホルダーミーティング (R6/2/6)

① -3. 環境整備支援<<継続>>株式会社アースカラー

【活動地域】岩手県北部沿岸エリア
 【テーマ】デジタル地域通貨による DEEP 岩手循環経済圏構築
 【活動概要】



4

【ステークホルダーミーティング】

催事名	岩手県北部沿岸エリアでの地域循環共生圏プラットフォーム構築ミーティング
開催日	R6/1/30（火）
開催形式	対面
会場	久慈市道の駅土風館（岩手県久慈市）
参加対象	DEEP 岩手循環経済圏構想に関心のある北岩手圏域の事業者
内容	(1) 事業構想の説明 (2) 講演「(カーボン(ボランティア)クレジットについて)」 (3) ワークショップ
支援内容	・企画への助言 ・当日の司会進行 ・終了後の振り返りと整理



ステークホルダーミーティング (R6/1/30)



ステークホルダーミーティング ワークショップ (R6/1/30)

①-4. 東北ブロック中間共有会

※中間共有会：環境整備に取り組む活動団体間のノウハウ交流や学び合いに加え、関係者が団体の活動状況を把握するためにブロックごとに開催するもの。

催事名	東北ブロック中間共有会
開催日	R5/10/10（火）
開催形式	対面
会場	根浜海岸観光施設「根浜シーサイド」 レストハウス多目的ルーム（岩手県釜石市）
内容	（１）オリエンテーション （２）活動発表と意見交換 ①株式会社アースカラー ②一般社団法人ゴジョる ③西川町地域資源活用イノベーション推進協議会 ④日承循環合同会社 ⑤一般社団法人 Reborn-Art Festival



東北ブロック中間共有会（R5/10/10）

①-5.GEOC が主催する会議等への参加

【全ての関係者が参加する会合】

催事名	全国キックオフミーティング								
開催日	R5/6/7（水）～8（木）								
開催形式	Web 会議								
内容	<p>プログラム 1 日目</p> <p>（１）地域循環共生圏プラットフォーム構築事業の概要説明</p> <p>（２）事業の進め方</p> <p>（３）講話：先輩地域より</p> <p>（４）活動計画の発表と意見交換</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>A</td> <td>①活動発表（継続 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>①活動発表（継続 6 団体） ②話を聞きに行く！タイム</td> </tr> </table> <p>プログラム 2 日目</p> <p>（１）1 日目の振り返り</p> <p>（２）活動計画の発表と意見交換</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>C</td> <td>①活動発表（新規 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>①活動発表（新規 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム</td> </tr> </table> <p>（３）全体振り返り</p>	A	①活動発表（継続 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム	B	①活動発表（継続 6 団体） ②話を聞きに行く！タイム	C	①活動発表（新規 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム	D	①活動発表（新規 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム
A	①活動発表（継続 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム								
B	①活動発表（継続 6 団体） ②話を聞きに行く！タイム								
C	①活動発表（新規 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム								
D	①活動発表（新規 5 団体） ②話を聞きに行く！タイム								

催事名	成果共有会										
開催日	R6/3/7（木）～8（金）										
開催形式	対面										
会場	TKP 新橋カンファレンスセンター ホール 16（東京都千代田区）										
内容	<p>プログラム 1 日目</p> <p>（１）オープニング</p> <p>（２）成果発表とポスターセッション</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>A</td> <td>①活動発表（継続 4 団体） ②ポスターセッション</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>①活動発表（継続 4 団体） ②ポスターセッション</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>①活動発表 （継続 2 団体、新規 2 団体） ②ポスターセッション</td> </tr> </table> <p>（３）ネットワーキング（情報交換会）</p> <p>プログラム 2 日目</p> <p>（１）成果発表とポスターセッション</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>D</td> <td>①活動発表（新規 4 団体） ②ポスターセッション</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>①活動発表（新規 4 団体） ②ポスターセッション</td> </tr> </table> <p>（２）クロージング</p>	A	①活動発表（継続 4 団体） ②ポスターセッション	B	①活動発表（継続 4 団体） ②ポスターセッション	C	①活動発表 （継続 2 団体、新規 2 団体） ②ポスターセッション	D	①活動発表（新規 4 団体） ②ポスターセッション	E	①活動発表（新規 4 団体） ②ポスターセッション
A	①活動発表（継続 4 団体） ②ポスターセッション										
B	①活動発表（継続 4 団体） ②ポスターセッション										
C	①活動発表 （継続 2 団体、新規 2 団体） ②ポスターセッション										
D	①活動発表（新規 4 団体） ②ポスターセッション										
E	①活動発表（新規 4 団体） ②ポスターセッション										



成果共有会 ポスターセッション（R6/3/7～8）



成果共有会 活動発表（R6/3/7～8）

【事務局関係者向け会議】

参加者：環境省地域政策課・民間活動支援室、GEOC、地方 EPO、地方環境事務所、請負者

催事名	共有会
開催日	R5/5/16（火）
開催形式	Web 会議
内容	(1) R5 年度年間予定について ・共生圏 PF 事業全体のスケジュール、重点事項 ・環境整備のスケジュール・重点事項 ・令和 6 年度以降の構想について (2) ヒアリング・支援計画の共有（20 案件） (3) キックオフ企画について (4) その他情報共有

催事名	事業形成会議
開催日	R5/12/8（金）
開催形式	Web 会議
内容	(1) 事業全体の進捗状況について ・環境整備（GEOC より） ・事業化支援（請負者より） ・その他（請負者より） (2) 共生圏 PF 後継事業について ・事業全体の目的・枠組 ・公募と地方審査 (3) R5 年度末の予定について ・第 2 回作業部会（2/9）企画案 ・成果共有会（3/7-8）企画案

【GEOC・EPO 向け会議】

参加者：アドバイザー委員、環境省地域政策課・民間活動支援室、GEOC、地方 EPO、請負者

催事名	第 1 回作業部会
開催日	R5/9/11（月）
開催形式	対面
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
内容	(1) R5 環境整備支援の現状共有（20 案件） (2) グループディスカッション 環境整備支援とアクションサイクル・モデルのブラッシュアップ (3) 地域政策課・共生圏 PF 全国事務局からの進捗共有

催事名	第 2 回作業部会
開催日	R6/2/9（金）
開催形式	対面
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
内容	(1) フォローシート共有（20 案件） (2) グループディスカッション 環境整備家庭における課題と打ち手（と結果）の言語化

【委員を対象とする会議（傍聴）】

会議名等		開催日	形式	内容
有識者会議	第 1 回	7/26（水）	Web 会議	支援の方策や内容、後継事業の方向性について意見交換が行われた。
	第 2 回	1/23（火）		
ワーキンググループ	第 1 回	8/25（金）		R5 試行メニューと達成目標、共生圏づくりのインパクトの評価手法・指標について意見交換が行われた。
	第 2 回	2/19（月）		



東北ブロック中間共有会（R5/10/10）



東北ブロック中間共有会（R5/10/10）

① -6. 事業化支援団体の活動の情報共有

【活動団体】日承循環（にっしょうじゅんかん）合同会社

【活動地域】山形県鶴岡市

【活動概要】

自然体験プラットフォームの構築を目指して以下に取組む。

- ①事業構造の把握（収益構造、人員計画、PR 方法）
- ②事業計画の作成
- ③自然体験コンテンツの作成
- ④営業活動の実施

【EPO 東北の関わり】

- ・進捗状況の把握のためにヒアリングや定例ミーティングに同席し、要望に応じて情報提供や助言を行った。
- ・東北ブロック中間共有会では先輩団体として参加いただき、環境整備団体に対して積極的にコメントや助言等ご発言いただいた。



意見交換合宿 意見交換会（R5/7/4～5）

会議名等	開催日	形式	開催地	内容	
ヒアリング	4/20（木）	対面	山形県鶴岡市	事業の方向性や R5 年度の取組み内容を確認するヒアリングに同席した。	
定例ミーティング	月1回	Web 会議	—	事業の進捗を確認する定例ミーティングにオブザーブ参加し、適宜情報提供等を行った。	
意見交換合宿	7/4（火）～5（水）	対面	山形県鶴岡市	事業化支援に取り組む活動団体間の学び合いと関係づくりを目的に合宿型の意見交換会が行われた。	
意見交換会	第1回	10/27（金）	Web 会議	—	地域プラットフォームの発展や事業推進に向けた気づきを得ることを目的に意見交換が行われた。
	第2回	3/8（金）	対面	東京都千代田区	



プラットフォーム相関図



もちもの、応援っ！

プラットフォーム「サトモツーリズムネットワーク」発足



意見交換合宿 現地視察（R5/7/4～5）



「サトモツーリズムネットワーク」発足の会（R6/1/28）

① -7. 支援終了団体のフォローアップ調査

調査対象	米沢市（山形県米沢市）
活動年度	R3～4年度
開催日	R5/11/18（土）
開催形式	対面
会場	上郷コミュニティセンター（山形県米沢市）
内容	<p>(1) 団体の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年に米沢市ゼロカーボンシティを宣言し、令和5年度は地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定を行った。 当時のPF事業担当者が政策企画課から環境生活課に異動となり、事業の経験を踏まえてゼロカーボンシティ米沢の実現に向けて取り組んでいる。 <p>(2) 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別の取組みに焦点を当てると小さな輪ではあるが着実に取組みが広がっており、米沢市としても継続して応援していきたい。 当時の取組みが現在進めている事業にもつながっている。地域や事業者に「話を聞きに行く」ことは大事なことで、振り返ればとても良い経験になった。



米沢市ゼロカーボンシティ推進シンポジウム（R5/11/18）

① - 8. 支援終了団体のフォローアップ

団体	一般社団法人 Reborn-Art Festival
活動年度	R1～4年度
催事名	おでんとタコスの店 「Reborn-Art STAND」内覧・試食会
開催日	R5/11/8（水）
開催形式	対面
会場	Reborn-Art STAND（宮城県石巻市）
概要	持続的な循環の創出や地域資源の掘り起こしの一環として、未利用魚や鹿肉を始めとした地域の食材を活用したおでんとタコスの店「Reborn-Art STAND」を石巻駅構内にオープンした。



「Reborn-Art STAND」内覧・試食会（R5/11/8）



「Reborn-Art STAND」地域の食材を活用したおでんとタコス

●事業総括

【成果】

- みちのく薪びと祭りとの連続開催によって参加者間の交流ができてきている状態で共有会の場を持つことができた。参加者から今後の連携提案が出されるなど積極的な発言もあり、対面開催ならではの機会を提供することができた。
- 開催地の活動団体には場の活用を提案し、今後巻き込みたい主体をオブザーバーとして招き事業への理解の深化を図った。
- みちのく薪びと祭り参加者との交流によって林業分野の視点や、地域の課題を俯瞰して考える同時解決性について新たな視座を得た様子が伺えた。活動団体に気づきを与える場作りができたことと評価できる。

【課題】

- 会議等の現地開催にあたり、仙台からの移動に時間を要し業務負担になっている。みちのく薪びと祭りとの中間共有会の連続開催は成果が多く得られた一方で、連泊での出張となったことからスタッフの負担は大きく、運営面の課題としてあげられる。
- ゆるやかな東北のネットワークをつなぐことはできたが、地域を超えた連携には至っていない。その先の展開を想定した後押しが必要と考える。
- 支援終了団体のその後の動きをみると、プロジェクトの成熟に時間を要することが伺える。単年度の事業で何を成果とするのか関係者間でも事業の捉え方が難しく、伴走支援のあり方を含め整理が必要と考える。

②地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会
(仕様書番号 4-(1)-ウ-(キ))

●プロジェクト概要

令和4年12月にCOP15が開催され、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択された。同枠組では、「30by30目標」が主要な目標の一つとして定められたほか、ビジネスにおける生物多様性の主流化等の目標が採択され、自然資本が経済活動の基盤との認識が国際的に広がっている。また、地域の身近な自然と地域のステークホルダーをつなぐことは地域循環共生圏の創造に資するものと捉え、身近な自然資本を活用した地域づくりに向けた関係者との意見交換や啓発の場作りを行った。

●事業目的

令和4年7月～8月に行われた生物多様性に関する世論調査では、「言葉の意味を知っていた」が29.4%、「意味は知らないが言葉は聞いたことがあった」が43.2%、「聞いたこともなかった」が26.5%で、生物多様性の保全に貢献する行動について「何をしたらよいかよくわからない」が50.7%だった。シンポジウムでは著名な講師を招くことで幅広い世代の集客を図り、理解と関心を高め、秋田県内での取組みを具体的に示すことで行動変容を促すことを目的とした。

●事業プロセス

	意見交換会等	相談対応等
4月		
5月	意見交換 ①第1回EPO連絡会 ②東北地方環境事務所	
6月	情報収集	
7月		
8月	企画調整	
9月		
10月	関係者勉強会	
11月	催事参加(情報収集)	
12月	シンポジウム	相談対応(2件) ・ヒアリング ・意見交換の機会をセッティング
1月		
2月		

●達成目標

- ・関係主体へのヒアリングと情報収集を行い、生物多様性に関心のある層やニーズを把握する。
- ・地域の主体と連携・促進した意見交換会等を開催し、生物多様性に関する地域の関心を高める。
- ・関係主体とのネットワークを広げ、意見交換等の開催をきっかけに地域のパートナーシップが促進される。

●EPO東北のアプローチ

- ・東北地方環境事務所と連携し、関係者を対象とした勉強会を開催した。生物多様性に関する最新の動向を把握するとともに、地域へのアプローチについて意見交換を行った。
- ・自然共生サイトに関心を持つ団体から相談が寄せられ、東北地方環境事務所との意見交換の機会を設けた。
- ・地域ニーズに合った企画となるよう、シンポジウムの開催にあたっては地域の主体と共催した。

相談対応等

催事名	自然共生サイト登録に向けた意見交換
開催日	R5/12/21(木)
開催形式	対面
会場	EPO東北(宮城県仙台市)
参加者	6名 まちづくりスポット仙台、MELON、環境省東北地方事務所、EPO東北
内容	自然共生サイト登録を目指す「まちづくりスポット仙台」に対して環境省から30by30に関する情報提供を行い、意見交換を行った。

催事名	生物多様性に関する意見交換
開催日	R6/2/1(木)
開催形式	対面
会場	みやぎ生活協同組合(宮城県仙台市)
参加者	7名 みやぎ生活協同組合、環境省東北地方事務所、EPO東北
内容	・30by30、OECMに関する情報提供 ・みやぎ生協の産直の仕組み、独自ブランド「めぐみ野」に関する情報交換 ・自然共生サイト、OECMの活用についての意見交換



②-1. 生物多様性勉強会

開催概要

催事名	生物多様性勉強会
開催日	R5/10/5 (木)
開催形式	Web 会議
参加者	8 名
主催	環境省東北地方事務所、EPO 東北
共催	一般社団法人 あきた地球環境会議
内容	(1) 話題提供 「生物多様性の概要と最新動向について」 相澤あゆみ氏 (環境省東北地方環境事務所) (2) 意見交換



②-2. シンポジウム「生物多様性と秋田の未来」

開催概要

催事名	シンポジウム「生物多様性と秋田の未来」
開催日	R5/12/23 (土)
開催形式	対面
会場	秋田拠点センター ALVE 多目的ホール (秋田県秋田市)
参加者	69 名
主催	環境省東北地方事務所、EPO 東北
共催	一般社団法人 あきた地球環境会議
内容	(1) 話題提供 「世界目標 30by30 について」 相澤あゆみ氏 (環境省東北地方環境事務所) (2) 基調講演 「生物多様性と私たちの未来～新たなる自然共生社会を目指して～」 五箇公一氏 (国立研究開発法人 国立環境研究所 生物多様性領域 生態リスク評価・対策研究室 室長) (3) 事例発表 「秋田の生物多様性とその現状」 船木信一氏 (大湯村干拓博物館 館長)
感想 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> 秋田に関わる話題から世界へ視野を広げていかなければいけない現状まで、とても興味深い内容でした。 生物多様性や地域づくりとのつながりについて、新しい視点で学びを深めることができました。 新しい知識が得られました。個人でできることから環境、生物多様性に対するアクションを起こしていこうと考えます。



シンポジウム「生物多様性と秋田の未来」 話題提供 (R5/12/23)



シンポジウム「生物多様性と秋田の未来」 (R5/12/23)

●事業総括

【成果】

- シンポジウムではオンライン配信は行わず、会場参加のみの対面開催としたが多くの参加を得ることができた。著名人を講師に迎えたことで高校生や大学生などユースの参加が多かった。秋田の事例発表を交えることで身近な課題として生物多様性を捉えてもらうことができた。
- 自然共生サイトに関する相談について、東北地方環境事務所と連携して対応した。広く勉強会を行うよりも個別対応による具体的な情報交換のニーズがあり、次年度の事業企画の際に留意したい。

【課題】

- ステークホルダーの掘り起こしや地域ニーズの把握を目的としたヒアリングの実施を計画していたが、他業務の兼ね合いから広く実施するには至らず寄せられた相談への対応に留まった。シーズやニーズの掘り起こしが課題となる。
- 世論調査では「何をしたらよいかわからない」人が多い結果が得られた。生物多様性や自然共生サイトに関する啓発に広く取り組むのか、自然共生サイト登録の対象となる限定的なエリアで関係者のパートナーシップ促進を働きかけるのか、ターゲットとEPO東北のアプローチを含め今後の事業方針について検討が必要である。

③地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 (仕様書番号 4-(1)-ウ-(ク))

●プロジェクト概要

環境政策においてカーボンニュートラルに加え、サーキュラーエコノミー（循環経済）、ネイチャーポジティブ（自然再興）の同時達成を実現する循環共生型の社会の実現が掲げられている。地域循環共生圏の創造の推進のために、地域に存在する「ヒト（ステークホルダー）」、「モノ（資源）」、「カネ（金融・経済）」、「情報（ノウハウ）」を繋ぐことが求められており、地域の主体と連携したフォーラムやセミナーを開催した。

●事業目的

環境省では ESG 地域金融促進事業として、地域金融機関と連携して地域課題の解決や地域資源を活用したビジネス構築のモデルづくりを推進し、金融機関を通じた企業の脱炭素化の後押しも実施している。一方で地方の金融機関および中小企業では認知度が低く、事例が少ない点が課題と捉えている。このため取り組みの意義を理解してもらうことを目的に、世界や国内の動向および事例について情報を提供し、行動を促す催事の企画に取り組んだ。

●事業プロセス

	情報交換会等の開催	会議等
4月		
5月		意見交換 (第1回EPO連絡会)
6月	ヒアリング	
7月	企画調整	
8月		
9月		
10月	セミナー【青森】 (過年度事業フォローアップ)	
11月	フォーラム【宮城】	
12月		
1月	セミナー【青森】	
2月	セミナー【宮城】 金融機関との情報交換	事業検討会議 (GEOC 開催)

●達成目標

- 行政や金融機関等へのヒアリングを行い、地域の状況やニーズを把握する。また事業の実施を通して関係構築に努め、次年度の事業につなげる。
- 地域の主体と連携・協働した情報交換会等を開催し、地域循環共生圏の視点から地域を見つめ直す対話の場を提供する。これまで EPO 東北では「東北地域のネットワーク」を念頭に広域的な取り組みを展開してきたが、エリア別の対話の機会を設けることで地域の関係主体の連携・協働を促進するモデル事例を創出する。

●EPO 東北のアプローチ

- 「脱炭素経営」「サステナブル経営」「ESG 金融」など、企画毎に焦点を当てるキーワードを変えてフォーラムおよびセミナーを開催した。
- 企画に際しては地域の主体と連携し、EPO 東北が持っていないチャンネルとの接続を試みた。
- 昨年度、青森県内 2 か所で中小企業を対象とするセミナーを開催したが、同様の内容を違うエリアで開催したいとの相談が寄せられたため、過年度事業のフォローアップと位置づけて共催した。



「気候危機時代を生き抜くサステナブル経営」
パネルディスカッション (R5/11/22)

③ -1. フォーラム「気候危機時代を生き抜くサステナブル経営」

開催概要

催事名	気候危機時代を生き抜くサステナブル経営	
開催日	R5/11/22 (水)	
開催形式	対面	
会場	せんだいメディアテーク 7F スタジオシアター (宮城県仙台市)	
参加者	35名	
動画配信	形式	YouTube 配信
	期間	R5/12/7 (木) ~ R6/2/29 (木)
	視聴回数	109回
主催	EPO 東北	
共催	ストップ温暖化センターみやぎ NPO 法人環境会議所東北	
後援 内容	宮城県、七十七銀行、信金中央金庫東北支店 (1) 講演 1『カーボンニュートラル時代の 企業・地域のあり方～金融の視点から』 吉高まり氏 (三菱 UFJ リサーチ & コン サルティング株式会社フェロー (サステナビ リティ)) (2) 講演 2『脱炭素で地域発展を目指す戦 略の作り方』 藤野純一氏 (公益財団法人 地球環境戦略研 究機関 (IGES) サステナビリティ統合セン タープログラムディレクター) (3) 話題提供『水産業×サステナビリティ 未来のために考えておくべきこと』 長谷川琢也氏 (一般社団法人フィッシャ マン・ジャパン Co-Founder SeaSO) (4) パネルディスカッション「持続可能な 地域づくり」 ファシリテーター：平田裕之氏 (全国地球 温暖化防止活動推進センター 事務局長) パネリスト： 吉高まり氏 藤野純一氏 長谷川琢也氏 井上直己氏 (東北地方環境事務所 統括 環境保全企画官)	

感想 (抜粋)

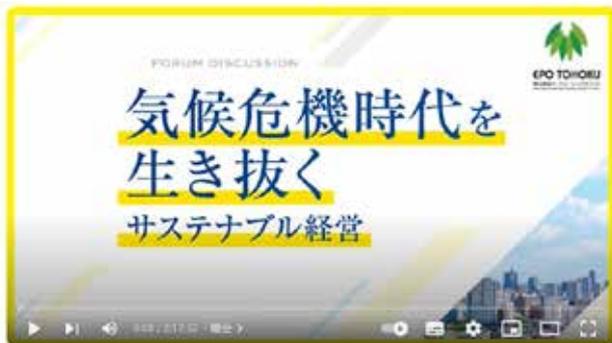
- ・ 地域金融が重要だと認識出来ました。
- ・ 大変勉強になりました。改めて、一人ひとりの取り組みの重要性を知ることができました。
- ・ 温暖化対策は我慢の世界というイメージだったが、経済を回せる対策が必要というのは目からうろこでした。
- ・ 講演、パネルディスカッションとも、素晴らしかったです。とても参考になり、刺激を受けました。



吉高まり氏の講演



藤野純一氏の講演



アーカイブ配信 トップ画面



パネルディスカッション

③ -2. あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー

開催概要

催事名	あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー in 青森
開催日	R6/1/16 (木)
開催形式	対面
会場	青森県男女参画センター アピオあおもり 大研修室 1 (青森県青森市)
参加者	34 名
主催	青森県地球温暖化防止活動推進センター、青森市地球温暖化防止活動推進センター、青森県
共催	EPO 東北
後援	東北地方環境事務所、青森市、青森商工会議所、青森県商工会議所連合会、青森県商工会連合会、青森県中小企業団体中央会、東奥日報社
内容	(1) 基調講演 1 「地域脱炭素に向けた環境省の取組み」 東北地方環境事務所地域脱炭素創生室 室長補佐 千葉武仁氏 (2) 基調講演 2 「ESG 金融の最新動向と投資拡大のチャンスについて」 株式会社脱炭素化支援機構 (JICN) 経営企画総務部企画グループマネージャー 飯野暁氏 (3) 地域事例紹介 1 「3R 推進と PDCA サイクルの醸成に EA21 を活用する取組みについて」 株式会社伸和産業 取締役 業務部長 太田康仁氏 (4) 地域事例紹介 2 「地球と暮らそう。Act local, Think global ! 零の住まいづくり」 株式会社建築工房零 (ゼロ) 青森設計室 福井素子氏 (5) 青森県の取組み (6) 意見交換
感想 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域だけでなく、官のお話を聞く機会があるのはいいと思いました。具体例やかみ砕いた説明をしてくださり、非常にわかりやすかったです。 ・脱炭素に関する国内外の動向がわかりました。デコ活は常に意識して生活するようにしていきたいと思いました。 ・具体的な地域事例が紹介されてとても参考になりました。考え方の転換が必要だなと思いました。



あおもり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー in 青森

③ - 3. 事業者向け ESD/SDGs セミナー

開催概要

催事名	ユネスコセミナー 産官学民で取り組む SDGs 企業として SDGs にどう向き合うべきか
開催日	R6/2/17 (土)
開催形式	対面
会場	フォレスト仙台 第 6 会議室 (宮城県仙台市)
参加者	50 名
主催	公益社団法人仙台ユネスコ協会、EPO 東北
共催	環境省東北地方環境事務所
後援	仙台市、仙台商工会議所、仙台青年会議所、宮城県中小企業団体中央会、株式会社河北新報社、株式会社宮城テレビ放送、株式会社仙台放送、株式会社東日本放送
内容	(1) 講演 I 環境省東北地方環境事務所 統括環保全企画官 井上直己氏 (2) 講演 II 仙台市環境局 地球温暖化対策推進課 課長 横田一馬氏 (3) 話題提供 1 株式会社七十七銀行 執行役員地域開発部長 茂田井健太郎氏 (4) 話題提供 2 株式会社ユアテック 常務執行役員総務部長 日野邦光氏 (5) 話題提供 3 株式会社仙台ターミナルビル 林健一氏
感想 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の方のお話が分かりやすく、理解できました。 ・私たち個人の意識をあげていくこと、そして行動につなげて参りたいと実感しました。 ・人との出会いも重要、よい機会でした。 ・団体会員のトップから担当まで多くの方が参加できるような啓蒙活動が可能となればと強く思いました。 ・学校とのつながりや事例なども聞いてみたいです。



セミナー 企業として SDGs にどう向き合うべきか

③ -4. 金融機関との情報交換

団体名	開催日	開催形式	場所	参加者
①七十七銀行	R5/10/5 (木)	対面	七十七銀行本店 (宮城県仙台市)	5名
②信金中央金庫東北支店	R5/10/6 (金)	対面	信金中央金庫東北支店 (宮城県仙台市)	5名
内容				
ESG 金融やサステナブル経営、脱炭素経営に関する地域動向等について情報交換を行った。また、フォーラム「気候危機時代を生き抜くサステナブル経営」の後援依頼を行った。				

③ -5. 過年度事業フォローアップ

開催概要

催事名	あおり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー in 八戸
開催日	R5/10/16 (木)
開催形式	対面
会場	デーリー東北新聞社 6F メディアホール (青森県八戸市)
参加者	57名
主催	青森県地球温暖化防止活動推進センター、青森県
共催	EPO 東北、NPO 法人循環型社会創造ネットワーク
後援	東北地方環境事務所、八戸市、八戸商工会議所、青森県商工会議所連合会、青森県商工会連合会、青森県中小企業団体中央会、デーリー東北新聞社、東奥日報社
内容	(1) 基調講演1「地域脱炭素に向けた環境省の取組み」 東北地方環境事務所地域脱炭素創生室 再エネ促進区域推進専門官 伊藤潤哉 (2) 基調講演2「地域金融機関としてのSDGs に対する取組み」 青い森信用金庫地域支援室 室長 畑中猛志氏 (3) 地域事例紹介1「八戸三社大祭山車行列のCO2 オフセットで地域貢献」 八戸液化ガス株式会社 専務執行役員 佐藤博之氏 (4) 地域事例紹介2「地域主導」の脱炭素による地域経済の活性化」 青森県民エナジー株式会社 取締役 富岡哲平氏 (5) 青森県の取組み (6) 意見交換
感想 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内で CO2 削減の取り組みを聞いて、弊社でも持続可能な取り組みの意識や進めていく事を強く感じた。 ・補助金や地域がどのように SDGs に対して計画しているのかなど知らない部分が多かった。 ・女性の経営者、助成管理者を育成していきたいので、いろんな女性の考え方や行動を聞いてみたい。

③ -6. 事業検討会議

開催概要

催事名	事業検討会議
開催日	R6/2/29 (木)
開催形式	Web 会議
内容	(1) 今年度事業の実施報告 ・各地方から実施状況を報告 ・民間活動支援室よりコメント ・アドバイザーよりコメント (2) 来年度の実施イメージ検討 ・R6 年度版 EPO 業務関係図、EPO ネット見取図 ・グループディスカッション



あおり中小企業のための ESG 金融・脱炭素経営に関するセミナー in 八戸

●事業総括

【成果】

- ・地域の主体との連携または協働による企画、登壇者と協働による企画に取り組み、フォーラム及びセミナーを開催した。
- ・ESG 金融やサステナブル経営に関する背景と動向及び地域の取り組み事例を紹介する構成がいずれも好評だった。
- ・「何をしたら良いかわからない」という声が多く聞かれ、これに対して取り組みの重要性や意義を伝えることができた。

【課題】

- ・地域金融機関や中小企業の巻き込みを想定して計画を立てたが、事業連携・協働には至らなかった。
- ・金融機関との情報交換では事業連携の可能性について共通認識を持つことができたが、具体的な取り組みに向けて関係構築を図りながら対話を積み重ねる必要がある。
- ・催事の開催形態が多様化する中で集客に苦慮しており、企画や広報のあり方について工夫が必要である。また、対象に合わせた広報チャンネルの発掘が課題である。

④パートナーシップ団体情報交換会等の開催（仕様書番号 4-（1）-ウ-（ケ））

●プロジェクト概要

EPO 東北では東北各地で各事業を展開するにあたり、地域の窓口となる団体を「パートナーシップ団体」と定義している。日頃から情報交換を行う他、地域事情や国内の最新動向について共有する情報交換の機会を設けた。

パートナーシップ団体

1	NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター
2	NPO 法人環境パートナーシップいわて
3	認定 NPO 法人環境あきた県民フォーラム
4	一般社団法人あきた地球環境会議
5	公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
6	NPO 法人環境会議所東北
7	NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター
8	NPO 法人環境ネットやまがた
9	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク

●事業目的

地域循環共生圏の創造の推進にあたり、地域の中に中間支援機能を持つコーディネーターを育成することが注目されている。各県に設置されている地域温暖化防止活動推進センターの中間支援組織化や EPO との連携について、全国のネットワークの中で提起されていることから、関係者間で意識共有と議論を行うことを目的に情報交換会を行った。

●達成目標

- ・パートナーシップ団体の活動の活性化に向けて先行事例の知見やノウハウを共有し、有益な情報交換を行うことで地域循環共生圏の実現に貢献する。
- ・地域脱炭素の推進に向けた地域温暖化防止活動推進センターや中間支援団体等と、EPO 東北が連携・協働していく体制を構築する。

●EPO 東北のアプローチ

- ・地球温暖化防止全国ネットおよびパートナーシップ団体の協力のもと、地域温暖化防止活動推進センター北海道・東北ブロック会議と同日に開催した。
- ・地域温暖化防止活動推進センターの中間支援組織化に焦点を当てて話題提供と意見交換を行い、参加者の意識共有を図った。

●事業総括

【成果】

- ・東北では地域温暖化防止活動推進センターと EPO が日ごろから連携しており、EPO ネットワークの中でも先進事例として注目されている。関係構築の段階にあるブロックもある中で、地域温暖化防止活動推進センターが中間支援機能を持つ必要性を共有し、議論を行うことができた。
- ・ブロック会議と同日に開催したことで各県の環境課からもオブザーブ参加があり、関係者間で考え方の共有ができたことは大きな成果と考える。

開催概要

催事名	パートナーシップ団体情報交換会
開催日	R5/7/6（木）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口 6D（宮城県仙台市）
参加者	30 名
主催	EPO 東北
内容	（1）話題提供 公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES） 藤野純一氏 （2）意見交換 テーマ： ①今後、地域温暖化防止活動推進センターに求められる役割とは ② EPO 東北と事業連携の可能性 ファシリテーター： 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 平田裕之氏
主な意見	・地域温暖化防止活動推進センターも今後は EPO のような中間支援機能を持つことが求められる。行政と地域をつなぐハブになってくれると良い。 ・EPO の役割はこの 10 年で大きく変化した。国の施策の変化に伴い手法も変化している。政策ニーズに応えられる EPO であることが求められる。 ・地域で脱炭素に向けた実行計画を作成するにあたっては、住民が「自分たちで作った計画」と認識できるよう、どうプロセスを作っていくかが大事だ。



パートナーシップ団体情報交換会（7/6）

【課題】

- ・一部のパートナーシップ団体とは事業連携を行っているが、地域によって温度差がある。今後どのように連携・協働を進めるかについて深掘りした議論には至らなかった。団体毎に個別のコミュニケーションも必要と考える。
- ・中間支援機能とは何か、定義の整理や身につけるべきスキルについて次年度も継続して議論を行うことが望ましく、情報交換会の場の持ち方が課題となる。

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

①みちのく薪びと祭り Stage2in 釜石（仕様書番号 4-（1）-工）

●プロジェクト概要

EPO 東北では地域開催型交流会としてH26(2014)年度より「みちのく薪びと祭り」を開催してきた。持続可能な暮らしや地域のあり方をテーマにした相互交流と学びの場として企画しており、東北らしい協働型事業として定着してきた。東北一巡後、会のあり方を検討し、「みちのく薪びと祭り」を通して地域を見直し取り組みの意義を確認することで新たな価値の再発見と活動の活性化につながる機会として、「みちのく薪びと祭り Stage2」を実施する。

●事業目的

薪をエネルギーとして活用し、地域資源や人、経済の地域循環に取り組む関係者が相互に学び合い、交流する機会を通じて参加団体の活動の活性化を図る。また、薪や林業を生業としつつ、他の地域課題解決にも同時に取り組む活動事例を学び、「SDGs」や環境省が提唱する「地域循環共生圏」の考え方から、複数の課題を複合的・統合的に解決する知見を共有し、活動のあり方を考える機会として設定する。

●事業プロセス

みちのく薪びと祭り	
6月	受け入れ団体ヒアリング 企画調整
7月	キーパーソン会議 登壇者依頼
8月	
9月	関係各所協力依頼
10月	みちのく薪びと祭り
11月	
12月	
1月	
2月	次年度に向けた調整

●達成目標

- ・林業と福祉など、環境課題と他の地域課題を掛けあわせて同時解決を目指す事例を提示することで、複合的・統合的な地域課題解決の理解が深まる。
- ・社会変容のとらえ方や今後に向けた考えを共有・議論し、これからの取組みのあり方を見直す機会となる。
- ・開催地において地域から新たな参加が得られる。

●EPO 東北のアプローチ

- ・岩手県内の団体で実行委員会形式を構成し、企画、運営を行った。
- ・開催運営・準備にあたり、開催地の観光 DMC を巻き込み、地域主体の運営体制を構築した。
- ・開催地のキーパーソンである、一般社団法人ゴジョるは環境省 PF 事業の採択団体であることから、事業フォローアップにも留意した。

キーパーソン

1	薪ストーブ愛好会くべる部
2	ニツ井宝の森林（やま）プロジェクト
3	NPO 法人遠野エコネット
4	NPO 法人しんりん
5	株式会社 百
6	つるおか薪倶楽部
7	鶴岡市三瀬地区自治会
8	ふくしま薪ネット
9	一般社団法人湯本森・里研究所
10	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

催事名	キーパーソン会議
開催日	R5/7/14（金）
開催形式	Web 会議
参加者	16名
内容	(1) 参加者の近況報告 (2) 今年度の薪びと祭り開催について



みちのく薪びと祭り打合せ（R5/6/13）

開催概要

催事名	みちのく薪びと祭り Stage2 in 釜石
開催日	R5/10/9（月祝）～10（火）
開催形式	対面 ※1部オンライン配信あり
会場	（岩手県釜石市内） ・ 鶴住居地区生活応援センター（鶴住居公民館） ・ 根浜海岸観光施設「根浜シーサイド」キャンプ場 ・ 釜石鶴住居復興スタジアム
参加者	77名
主催	みちのく薪びと祭り Stage2 in 釜石実行委員会（NPO 法人遠野エコネット、一般社団法人ゴジョる、NPO 法人吉里吉里国、EPO 東北）
共催	EPO ちゅうごく
協力	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）



1日目 オリエンテーション



2日目 フィールドワーク



集合写真

内容	1	<p>(1) 開会あいさつ</p> <p>①岩手県釜石市産業振興 部長 小山田俊一氏</p> <p>②環境省東北地方環境事務所 課長 中田敏氏</p> <p>(2) オリエンテーション 趣旨説明、参加者紹介</p> <p>(3) 活動紹介 一般社団法人ゴジョる 代表理事 菊池隼氏</p> <p>(4) 講演【環境×福祉】 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長 炭谷茂氏</p> <p>(5) 話題提供 【環境（薪）×教育】 NPO 法人遠野エコネット 代表理事 千葉和氏 【環境（薪）×復興】 NPO 法人吉里吉里国 理事長 松永いつみ氏 【環境（薪）×生物多様性】 登別市観光交流センター 副センター長/学芸員 白川勝信氏</p> <p>(6) パネルディスカッション 【テーマ】</p> <p>①地域存続のための森林エネルギーの活用</p> <p>②担い手の確保、育成</p> <p>■ファシリテーター：白川勝信氏</p> <p>■パネリスト：</p> <p>①炭谷茂氏</p> <p>②岩手県西和賀町 町長 内記和彦氏</p> <p>③ NPO 法人しんりん 理事長 大場隆博氏</p> <p>④東北大学学際科学フロンティア研究所 /株式会社百 中安祐太氏</p> <p>⑤菊池隼氏</p>
	2	<p>エキスカージョン</p> <p>※雨天のため行程変更</p> <p>【視察】釜石鶴住居復興スタジアム</p> <p>①釜石鶴住居復興スタジアムの説明 釜石市スポーツ推進課 佐伯悠氏</p> <p>②みのすけ沼を中心とする生物多様性について 岩手県立大学総合政策部 教授 島田直明氏</p> <p>③東日本大震災の記憶 中学生当時 いのちをつなぐ未来館 職員 川崎杏樹氏</p> <p>クロージング</p> <p>①全体講評 岩手県立大学 名誉教授 渋谷晃太郎氏</p> <p>②次年度開催について EPO 東北 統括 井上郡康</p>

感想
(抜粋)

- 東北地方の薪びとが取り組む「環境×〇〇」「薪×〇〇」はどれも素敵で、大変学びになりました。特に「環境×福祉」の可能性を大きく感じました。
- 薪×教育、環境×教育を軸に、立体的まきこみを意識したいと更に思いました。
- 新しい取り組みや考え方を学ぶことができたことと、自分の考えていたことを同じように考え、実践されている方が多くいることを感じる事ができ、非常に有意義でした。
- 薪びと祭りの原点が東日本大震災なので、釜石という地で民宿や語り部の方々のお話を聞きながらフィールドワークできて良かったです。



べちゃくちゃタイム



会場意見交換



パネルディスカッション



フィールドワーク



フィールドワーク

●事業総括

【成果】

- これまで薪をテーマの中心に議論を続けてきたが、環境以外の地域課題をかけあわせて同時解決を目指す地域循環共生圏の考え方の意義を参加者と共有することができた。
- 地域循環共生圏プラットフォーム事業の関係者が参加したことで、薪や林業以外の視点も交えて、地域の課題を俯瞰する視座を持って議論することができた。
- 人数制限はあったものの、岩手県内の多くの関係者に参加いただき、参加者同士また EPO 東北としても新たなつながりを得ることができた。

【課題】

- 開催地の受け入れ団体にとって運営に関わる負担が大きいため、次年度の開催地を検討する際に受け入れを躊躇する団体が出てきている。EPO 東北においても業務量の増加により 1 泊 2 日のプログラムを実施していくことが難しいなど運営面に課題がある。プログラムの縮小化やオンラインの活用など、開催規模や開催形態の見直しが必要である。
- キーパーソンとの協働を進めてきたが、地域ごとに新しいステークホルダーの掘り起こしとネットワークを拡充するには至っていない。「みちのく薪びと祭り」の再設計が次年度の課題となる。

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務

1) 運営

①企画運営委員会の開催運営（仕様書番号 4-（2）-ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	見上一幸	(公社) 仙台ユネスコ協会 会長 宮城教育大学 名誉教授
副委員長	渋谷晃太郎	岩手県立大学 研究・地域連携 本部 地域連携コーディネーター
委員	浅野亮	気仙沼市・宮城教育大学連携セ ンター主任運営員（運営統括）
	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部 国際教 育領域 教授、ESD/ ユネスコス クール・東北コンソーシアム運 営委員長
	齋藤修一	只見町教育委員会 元教育長
	福岡真理子	(一社) あきた地球環境会議 事 務局長、地域 ESD 活動推進拠 点
	田口好信	秋田県生活環境部温暖化対策課 課長
	遠藤和之	山形県環境エネルギー部環境企 画課 課長



第 2 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会（R6/2/13）

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 1 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会	
開催日	R5/5/29（月）
形式	対面中心のハイブリット
会場	フォレスト仙台 2 階 第 5・第 6 会議室 (宮城県仙台市)
参加者	20 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ① R5 年度事業計画について ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企 画運営委員会 ① R5 年度事業計画について ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ESD や ESD センターの関わりの中に文部科学省が入ってこない。 地域 ESD 拠点に登録しているが、学校からの問合せが出始めた。地域 ESD 拠点について上手な広報を考えてほしい。 生物多様性と気候変動は分けて考えられない。ESD の研修会で生物多様性について学び合うことがあっても良いと思う。 博学連携が不足している。社会教育施設との連携があるとネットワークの幅と深みが出て、実際の学びに繋がっていくのではないか。 青森県のモデルを横展開しようとしても展開先の受け皿の心が育っていない。そこをどうしていくのか企画運営委員会の中で取り組んでいかなければならないと考える。

第 2 回 EPO 東北事業検討委員会並びに第 2 回東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会	
開催日	R6/2/13（火）
形式	対面中心のハイブリット
会場	仙都会館 会議室 4F（宮城県仙台市）
参加者	27 名（委員 6 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 5 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北地方 ESD 活動支援センター企 画運営委員会 ①令和 5 年度事業報告 ②意見交換 (3) 全体意見交換
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ESD は学校現場でほとんど知られていない。このギャップをどうするか、多面的なアプローチを考えなければならない。 ESD 地域コーディネーターの活躍で東北の取り組みが盛り上がっていることが感じられた。 東北 ESD/SDGs フォーラムは教育現場と地域の実践の両方の話題提供がありとても良かった。SDGs の中身までは知らない人が多く、まだまだ啓発が必要な層もいることは留意すべき点だ。自分たちの目的ははっきりと打ち出した方が良い。 アーカイブ配信はして欲しいが、情報過多の中で見てもらえるようにどう伝えるかが鍵になる。 今後も地域 ESD 活動推進拠点と ESD 地域コーディネーターがうまくつながると良い。

2) 基本業務

① ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供（仕様書番号 4-（2）-イ）

●情報収集

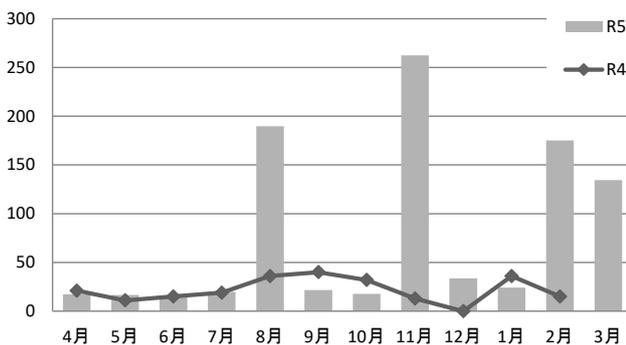
学校現場では ESD 型の探求授業の在り方を模索していることから、関係者へのヒアリングおよび情報収集に努めた。また、企業における人材育成や ESD に関心のある青年会議所やユネスコ協会等、多様な主体との情報交換を行った。

●情報発信

ウェブサイトおよびメールマガジンを活用し、環境活動や ESD、SDGs に関する情報の他、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。地域 ESD 拠点の活動レポートを作成してウェブサイトに掲載し、東北 ESD センターの紹介と合わせて冊子にとりまとめた。個別ページの PDF データ共有や印刷配布を行った。

② -1. ウェブサイト

ウェブサイトページビュー数 1日平均 77.3 件



※メールマガジンは EPO 東北事業報告 (P38) を参照

WEB サーバ移行対応

作業期間 2023/4/20 ~ 4/26

概要	アプリケーション等のバージョンアップを円滑に行いウェブサイトのセキュリティを高めることが目的に ESD センターのウェブサーバーを VPS から通常のサーバーに移行する作業が行われた (担当: ESD 活動支援センター)。
対応	1) WEB サーバ更新期間中、東北 ESD 活動支援センターの WEB 更新停止 2) サーバ接続時の固定 IP の廃止 ※各自の PC から接続可能になった。 3) サーバ接続のための so-net 契約を解除

カテゴリ分類の再編

作業期間 2023/9

概要	1) ウェブサイト内のカテゴリ分類を見直し、再編した。 2) 地域 ESD 活動推進拠点の活動を紹介するカテゴリを新設し、活動レポート PDF を掲載した。
----	---

② -2. パンフレット

冊子名	東北地方 ESD 活動支援センター 活動レポート 2023
ページ数	28 ページ
発行部数	800 部
構成	(1) 東北地方 ESD 活動支援センター紹介 ・ ESD とは ・ ESD の変遷 ・ ESD と SDGs の関係 ・ 4つの機能 (4) 地域 ESD 活動推進拠点とは (5) 地域 ESD 活動推進拠点 活動レポート (10 団体) (6) 東北地方 ESD 活動支援センター活動レポート
補足	・ 地域 ESD 活動推進拠点が活用できるよう PDF パンフレットを作成し、校了した原稿から順次ウェブサイトに掲載した。 ・ 地域 ESD 活動推進拠点レポート掲載件数: 10 件 ・ R6 年度に未掲載 11 団体のレポートを作成する。 ・ 年度末に東北地方 ESD 活動支援センター紹介のページと合わせて冊子化した。

●事業プロセス

	東北 ESD センター	地域 ESD 活動推進拠点
6 月	企画検討	
7 月	業者選定、企画打合せ	
8 月		レイアウト案検討
9 月	紹介ページ作成	月 2 団体ずつ ①原稿依頼 ②構成作業 ③ウェブサイト掲載
10 月		
11 月		
12 月	ウェブサイト掲載	
1 月	活動レポートページ作成	
2 月	冊子化に向けた校正作業	
3 月	ウェブサイト掲載	校了・印刷

② ESD 活動に関する相談及び支援窓口（仕様書番号 4-（2）-ウ）

②-1.ESD 活動に関する相談及び支援

共催

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	6/9	令和5年度 第1回 気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会	気仙沼市教育委員会、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会	宮城県 気仙沼市
2	8/18	2023年度 コンソーシアム第1回 SDGs セミナー	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	宮城県 仙台市
3	10/12	大曲南中学校キリバス交流授業	大仙市立大曲南中学校	秋田県 大仙市
4	11/2	気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2023	気仙沼市教育委員会、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	宮城県 気仙沼市
5	3/11～ 12	キリバス共和国におけるトロンバイ人材（環境マスター）育成事業～キリバスユース・日本ユース SDGs 交流会～	公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、一般社団法人日本キリバス協会、NGO KiriCAN	宮城県 仙台市

後援

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	8/5	「地球温暖化に挑む海洋教育プログラム」 オンライン研修会	地球温暖化に挑む海洋教育プログラム研究会	Web 会議
2	8/22～ 3/31	第15回環境教育ポスターコンクール	公益財団法人こども教育支援財団	—
3	8/21～ 9/30	第2回 南極・北極 SDGs 探究学習コンテスト	公益財団法人 日本極地研究振興会	—
4	12/15	日本 ESD 学会 ESD 地域研究会 in 庄内 「食の視点から考える ESD/SDGs」	日本 ESD 学会	山形県 鶴岡市
5	12/16 ～17	第9回公害資料館連携フォーラム in 福島	公害資料館ネットワーク、第9回公害資料館連携フォーラム in 福島実行委員会	福島県 福島市
6	1/20	令和5年度文部科学省ユネスコ活動費補助金 SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業 「社会教育・学校教育融合型の ESD を主眼としたカリキュラムパッケージの開発」 成果報告会	ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム、 静岡大学 教育学部	福岡県 北九州市

活動支援・協力

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	—	日中韓三カ国における『気候変動の緩和と適応を目指した環境教育～「参画」に焦点を当てて～』に関する比較調査	日中韓環境教育ネットワーク	—
2	7/27	<全国ユース環境ネットワーク> 東北地区高校生 SDGs セミナー 2023 夏 「生物多様性と SDGs ～高校生同士の SDGs 意見交換会」	独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局	宮城県 仙台市

催事・会議等参加

No.	開催日	催事名等	主催	開催地
1	7/20	第2回環境教育等推進専門家会議	環境省環境教育推進室	Web 会議
2	11/7	ESD 公開授業研究会	只見町教育委員会	福島県 南会津郡

その他相談対応

- ・企画への助言
 - ・講師紹介
 - ・広報協力
 - ・情報提供、事例紹介
- 相談対応件数 25 件
等 対話の機会数 23 件

② -2.ESD 地域コーディネーター

昨年度、試行的に外部リソースの活用として取り組んだ「ESD 地域コーディネーター」を今年度から本格的に運用した。

宮城県で活動する人材を 1 名拡充し、青森県、宮城県、福島県の 3 県に ESD 地域コーディネーターをおいた。地域目線での情報収集、活動支援、ネットワーク構築等により、具体的な地域の ESD 活動の底上げと、東北

地方 ESD 活動支援センター事業との連携・協働を推進した。

また四半期ごとに、定例ミーティングの場を設け、それぞれの活動や成果、課題を共有し、コーディネーターの知見を深めるとともに、東北地方 ESD 活動支援センターとしての、支援内容の拡充や質の向上を図った。

活動地域	青森県	宮城県	福島県
氏名	貝森毅彦氏 青森県地球温暖化防止活動推進員 元小学校校長	内藤恵子氏 公益社団法人仙台ユネスコ協会副 会長・ESD 推進委員長 元小学校校長	齋藤修一氏 元只見町教育委員会 教育長 東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員
主な活動	①東北地方 ESD 活動支援センター事業「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」における企画調整・実施校との調整 ②青森県義務教育教科等担当指導主事連絡協議会での情報提供 ③小学校を中心とした情報収集	①東北地方 ESD 活動支援センター事業「ESD 地域研修会」における、全体企画調整、企画運営 ②市民向け ESD 講座の企画、実施 ③ ESD 実践の情報収集	①ネットワーク構築（行政、学校、企業、NPO、ユネスコ協会等へのヒアリング訪問） ②福島県での ESD フォーラム実施に向けた調整 ③会津若松市幼小中学校長会議での講演

●定例ミーティング

	開催日	形式	会場	参加	内容
第 1 回	5/30 (火)	対面	EPO 東北	8 名	(1) コーディネーター業務について (2) ESDfor2030 学び合いプロジェクトについて (3) 各コーディネーターから活動の方向性の共有 (4) 意見交換
第 2 回	9/14 (木)	ハイブリット		6 名	(1) 各コーディネーターの活動報告、予定共有 (2) 意見交換
第 3 回	11/30 (木)	Web 会議		8 名	佐賀県温暖化センターとの環境教育推進に関する意見交換会と同時開催 (1) 東北地方 ESD 活動支援センター活動紹介 (2) ESD 地域コーディネーター制度について (3) 各コーディネーターから活動紹介 (4) 意見交換

●事業総括

【成果】

- 活動状況の把握と平日頃のコミュニケーションに留意し、定例ミーティングによるコーディネーター同士の意見交換の機会を設けた。各地域の状況やアプローチが互いの刺激となっている。
- コーディネーターの自主性に配慮しながら協働による事業の実施に取り組んだ。各コーディネーターの知見やネットワークを活用して学校や企業、市民施設、行政など、多様な主体への働きかけが行われ、重層的なネットワーク構築につながった。
- コーディネーターの活躍により、今後も継続的な地域の ESD 活動の推進・支援が期待できる。

【課題】

- 3 名のコーディネーターはそれぞれ教育分野での経験を持っているため、教育分野へのアプローチを得意としている。コーディネーターを拡充するにあたっては他分野での経験を持つ方の協力を得ることで、企業や社会教育施設、市民施設等、現在不足している分野へのアプローチを強化できると考える。今後に向けて人材の掘り起こしが次年度の課題となる。
- 東北地方 ESD 活動支援センターの目指す方向性や事業の目標設定など、互いに共通認識を持って活動を進めるための情報共有のあり方、日々のコミュニケーションのあり方に留意する必要がある。円滑なコミュニケーションおよび事業推進に向けて、引き続き工夫と改善を行う。

3) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

① ESDfor2030 学び合いプロジェクトの実施（仕様書番号 4-（2）-エ-（ア））

●プロジェクト概要

第2期 ESD 国内実施計画（2021年5月に策定）の中で位置づけられた「テーマ別の学び合いの仕組み」として実施するもので、全国8か所の地方ESD活動支援センターがブロックごとに地域の課題やセンターの強みを活かしてテーマを設定し、プロジェクトを運営する。様々な主体が地域を超えて参加し、相互の学び合いや実践活動を通して各主体の活動の向上を図るとともに、得られた知見を活かし同様の取組みを全国に広めていくことを目的としている。

●事業目的

気候変動時代のESDを促進するために、ESD推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とした学び合いの機会を提供することを目的とした「ESDfor2030 学び合いプロジェクト」を企画する。実施にあたってはESD地域コーディネーターおよび地域ESD推進拠点と連携し、地域特性を活かしたモデルプログラムの創出に取り組む。

●達成目標

- ・気候変動教育の東北モデルプログラムを創出する。各教科で気候変動に関連する内容を押さえ、ローカル課題を重点的に取り上げながら、「総合的な学習」に留まらず教科横断的に教育課程を進める気候変動教育の実現を目指す。
- ・気候変動についての理解を図り、その緩和と適応の行動を実際に行うことで、児童自身の思考力や判断力などの能力態度を身に付け、さらには一人ひとりの人間性の変容を求める。
- ・地域ESD推進拠点とESD地域コーディネーター、地域のESD実践者、東北地方ESD活動支援センターが連携した支援のあり方を整理し、地域内で継続的に展開される体制を構築しロールモデルを創出する。
- ・地域人材の活用や、ツールの活用、世代間交流等のあらゆる手法・プロセスからプログラムを展開し、関係者間で効果の検証を行う。

●東北地方 ESD 活動支援センターのアプローチ

- ・ESD地域コーディネーターと連動し、コーディネーターが実際に学校現場でつかんだニーズを元にプロジェクトの組み立てを行った。
- ・青森県内の地域ESD拠点との連携による、プロジェクトの実施を意識した。

●事業プロセス



第1回勉強会（R5/6/9）



第2回勉強会（R5/7/11）

開催概要

【勉強会】

催事名	第1回勉強会
開催日	R5/6/9（金）
開催形式	対面
会場	青森市立堤小学校 体育館（青森県青森市）
参加者	青森市立堤小学校 6 学年 71 名 オブザーバー（青森大学 藤教授、青森県教育委員会）
内容	（1）オリエンテーション 貝森毅彦氏 （2）3 グループに分かれ、それぞれのゲストティーチャーからお話を伺う ①澁谷種苗店 澁谷扶美子氏 ②ホタテ漁師 中村拓也氏 ③青森観光リンゴ園まるせん川村 川村富子氏 （3）全体共有 各グループで聞いたことを児童が発表 （4）お礼の言葉 児童代表



第1回勉強会 ゲストティーチャーに質問する（R5/6/9）

催事名	第2回勉強会
開催日	R5/7/11（火）
開催形式	対面
会場	青森市立堤小学校 体育館（青森県青森市）
参加者	青森市立堤小学校 6 学年 71 名
内容	（1）オリエンテーション 貝森毅彦氏 （2）講演 青森地方気象台 三上晃司氏 （3）お礼の言葉 児童代表



第2回勉強会 ゲストティーチャーによる授業（R5/7/11）

催事名	第3回勉強会
開催日	R5/12/4（月）
開催形式	対面
会場	青森市立千刈小学校 TT ルーム（青森県青森市）
参加者	青森市立千刈小学校 6 学年 39 名 青森大学 鹿内史教授、学生 5 名（台湾、ベトナムからの留学生 3 名、SDGs かるた作成に関わった日本人学生 2 名）
内容	（1）オリエンテーション 貝森毅彦氏 （2）はじめの挨拶 児童代表 （3）児童と学生のグループ作り（5 グループ） （4）交流会 ・自己紹介 ・児童が地球温暖化について調べたこと、取り組んでいることの紹介 ・学生からの感想、質問 ・SDGs かるた遊び （5）学生からの感想 （6）鹿内教授からの感想 （7）おわりの挨拶 児童代表



第3回勉強会 オリエンテーション（R5/12/4）



第3回勉強会 SDGs かるた遊び（R5/12/4）

催事名	第4回勉強会
開催日	R5/12/14 (木)
開催形式	ハイブリット
会場	青森市立堤小学校
参加者	青森市立堤小学校・千刈小学校 教員 25名
内容	(1) 趣旨説明 東北地方 ESD 活動支援センター (2) 講演①「研究動向から考える学び」 青森大学社会学部教授、 SDGs 研究センター長 藤公晴氏 (3) 講演②「みやぎ SDGs 環境学習支援」 公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネット ワーク 亀崎英治氏 (4) 質疑応答
感想 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを実践したときに効果を実感できることはとても大切だと思った。 ・学校と企業をつなぐ団体があると環境教育を進めやすと思った。教育の負担は逆に増えるのではないかと思う。行動に移させるよう進めるのも大切だと感じた。 ・「実践は大切」だが、他のクラスや他校とのやりとりのためにも、記録を残すことが肝心だと思う。 ・子どもたちに行動まで意識させたいけれど、「自主的に」というのはいつも難しさを感じている。 ・子どもたちの行動変容につながるよう意識していきたいと思います。



第4回勉強会 講演①「研究動向から考える学び」(R5/12/14)



第4回勉強会 会場の様子 (R5/12/14)

催事名	第5回勉強会
開催日	R5/12/15 (金)
開催形式	対面
会場	青森市立堤小学校 体育館 (青森県青森市)
参加者	青森市立堤小学校 6 学年 71 名 青森大学 藤公晴教授、学生 8 名 (中国、韓国、台湾、ベトナムからの留学生)
内容	(1) オリエンテーション 貝森毅彦氏 (2) はじめの挨拶 児童代表 (3) グループに分かれての交流 <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・学生から自分の国の地球温暖化についての紹介 ・感想、質問 (4) 児童からの振り返り感想 (5) 藤教授からの感想 (6) おわりの挨拶 児童代表



第5回勉強会 (R5/12/15)



第5回勉強会 (R5/12/15)

【実践活動】

催事名	実践活動 青森と宮城の小学校のオンライン交流授業
開催日	R6/2/19 (月)
開催形式	Web 会議
参加者	青森市立堤小学校 6 学年 6 名 (代表児童) 青森市立千刈小学校 4 学年 48 名 気仙沼市立鹿折小学校 5 学年 23 名 関係者 8 名
内容	司会：青森市立堤小学校児童 (1) 開会挨拶 青森市立堤小学校児童 (2) 活動発表 ①青森市立堤小学校 ②青森市立千刈小学校 ③気仙沼市立鹿折小学校 (3) 各学校からの取組提案と感想 (4) 閉会挨拶 青森市立堤小学校児童



青森と宮城の小学校のオンライン交流授業 (R6/2/19)

【意見交換会】

催事名	意見交換会
開催日	R6/3/4 (月)
開催形式	Web 会議
参加者	プロジェクトメンバー 11 名、事務局 3 名
内容	(1) プロジェクト報告と振り返り (2) 実施校からの感想 (3) 意見交換
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教員以外の方からお話をいただき、違う視点でお話しをいただくことで、子どもたちの知識、学ぶ意欲が高まったと思う。 ・留学生にとっても日本の取り組み・母国の取り組みを知ることができ、気候変動に対する関心の高まりが確認できた。お兄さん・お姉さん子どもたちの関心を見ることでとても良い影響を受けたようだ。 ・地域の皆様の声を聞くことによっていろいろな価値観の引き出しが子どもたちの中に増えたのではないかと。地域の方の現状を肌で感じることで、子どもたちなりに一生懸命考えて思考の脱皮ができたのではないかと。思う。 ・広範な領域を扱う問題で、関わり続けていく姿勢をどう育むかが難しい。 ・カリキュラムの中にしっかりと位置付けていければ、気候変動教育も教科の中で取り組んでいける身近なものと感じることができよう。

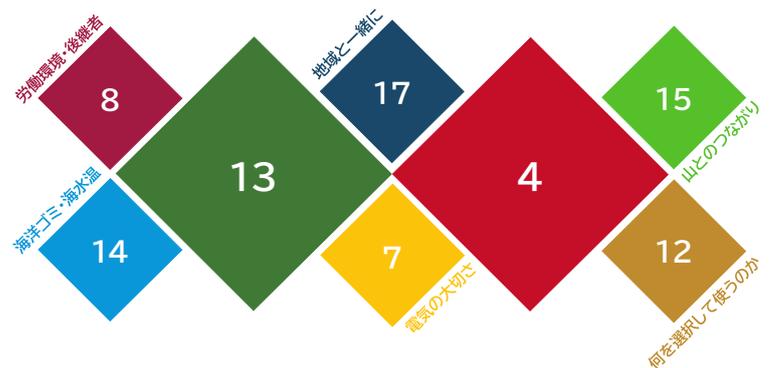


青森と宮城の小学校のオンライン交流授業 (R6/2/19)



意見交換会 (R6/3/4)

東北地方ESD活動支援センター 令和5年度 ESD for 2030学び合いプロジェクト
東北モデルプログラム「ローカルから考える気候変動教育」



関係者名簿

分類		団体名
地域 ESD 活動推進拠点		NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター 青森大学 青森市立千刈小学校 青森市立堤小学校
意見交換メンバー名簿（敬称略、順不動）		
分類	氏名	所属・役職
青森県メンバー	貝森毅彦	青森県・市地球温暖化防止活動推進員 / アースレンジャー ESD 地域コーディネーター
	盛秀一	青森市立千刈小学校 校長
	山崎斉	青森市立堤小学校 校長
	三浦麻子	青森県環境パートナーシップセンター 事務局長
	藤公晴	青森大学 社会学部教授 青森大学 SDGs 研究センター センター長
東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員	見上一幸	(公社) 仙台ユネスコ協会 会長 宮城教育大学 名誉教授
	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部 国際教育領域 教授 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長
	浅野亮	気仙沼市宮城教育大学連携センター 主任運営員
	福岡真理子	一般社団法人全国温暖化防止ネット 理事 一般社団法人あきた地球環境会議 理事・事務局長
	齋藤修一	福島県只見町元教育長 ESD 地域コーディネーター
ESD 実践者（青森県外）	内藤恵子	公益社団法人仙台ユネスコ協会 副会長 ESD 地域コーディネーター
	亀崎英治	公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク スタッフ

②ノウハウの共有と推進に関する方策の検討（仕様書番号 4-（2）-エ-（イ））

催事名	第1回作業部会
開催日	R5/6/21（水）
開催形式	対面
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
内容	（1）ESD 気候変動教育の進捗の可視化マトリクスの共有 各センターの戦略やねらい（社会的インパクト）を共有 （2）意見交換

催事名	第2回作業部会
開催日	R5/11/15（水）
開催形式	対面
会場	地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） （東京都渋谷区）
内容	（1）学び合いプロジェクト全体の目標確認 （2）各地方センターの学び合いプロジェクトの共有 （3）気候変動を軸とした ESD 実践事例ヒアリングについて （4）「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023」について

●事業総括

【成果】

- ESD 地域コーディネーターが各学校との調整を担うことで中間支援機能が発揮され、現場のニーズに合わせて課題を整理し企画を組み立てることができた。
- 青森の資源に視点を当て、地元の農家や漁師、専門機関等の協力のもとプログラムを実施することができた。遠い世界の出来事と捉えられがちな気候変動というテーマに対して、「青森」を入り口に考えるプログラムの創出につながった。
- 青森県では4つの団体が地域 ESD 拠点として登録しており、地域 ESD 拠点間の連携および協働による事業を実施することができた。実施にあたっては ESD 地域コーディネーターが東北地方 ESD 活動支援センターと共に中間支援者として間をつなぐ役割を担い、事務局の業務負担の軽減にもつながっている。

【課題】

- 教育委員会へのアプローチを行ったが、具体的な連携には至らなかった。
- 地域 ESD コーディネーターのコーディネーションにより学校側の事情を踏まえた細やかな対応ができた一方で、調整の結果、勉強会の実施回数が増えて事業の実施期間が3カ月後ろ倒しとなった。コーディネーター不在では全体調整が難しく、モデル事業として汎用性の点に課題がある。
- 数回の授業を経て児童が自分事として取り組む姿勢が見られたと共有があったが、プロジェクトの効果を測る指標は設けておらず、今後の課題となる。

4) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（仕様書番号 4-（2）-オ-（ア））

●プロジェクト概要

ESD をより実践者および関心のある層が ESD/SDGs について理解を深め、実践事例を基に知見やノウハウを学ぶことで地域の ESD 活動の促進に貢献する。また、東北地域の ESD 事例を広く発信する機会と捉え、多様な主体との連携・協働による企画運営によって地域ネットワークの構築を支援する。

●事業目的

2015年9月の国連サミットで採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」は2030年を年限としており、2023年は「中間年・折り返しの年」を迎えている。東北内の活動の現状を把握・共有しながら、東北全体のこれまでの振り返りを行い、2030年までの残りの取組みの方向性を議論し、具体的な行動発展につなげる。

●事業プロセス

東北 ESD / SDGs フォーラム	
7月	企画検討
8月	企画打合せ
9月	↓ 登壇依頼
10月	
11月	広報開始
12月	↓ 登壇者打合せ
1月	フォーラム
1月	アーカイブ配信
2月	↓

●達成目標

- SDGs も折り返しに差し掛かっている認識を持つとともに、今後の取組みとして何が必要なのか理解が深まる。
- ESDfor2030 の中にもあるように、持続可能な社会を実現するため（SDGs）には教育（ESD）が重要であるという理解が深まる。

●東北地方 ESD 活動支援センターのアプローチ

- 事例紹介では東北6県から、NPO、自然学習施設、学校での取り組み等、さまざまな分野における事例を取り上げ学校教育だけではなく、社会教育、生涯教育につながる企画に留意した。またジェンダーバランスに考慮した。
- 会場内でポスター展示のスペースを設け、東北内の地域 ESD 推進拠点（21 拠点）に出展をお願いした。地域 ESD 拠点の活動の認知につながり、相談窓口や連絡先として活用されるよう実施した。



パネルディスカッション



事例紹介



ポスター展示

開催概要

催事名	東北 ESD/SDGs フォーラム 2023 ～SDGs 達成に向けた東北の今と未来～		
開催日	R5/12/16 (土)		
開催形式	ハイブリッド		
会場	仙台国際センター 白樺 1・2 (宮城県仙台市)		
参加者	会場参加 41 名 オンライン参加 17 名		
動画配信	形式	YouTube 配信	
	期間	R6/1/16 (火) ～ R6/2/16 (金)	
	視聴回数	47 回	
主催	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム 環境省東北地方環境事務所 東北地方 ESD 活動支援センター		
後援	ESD 活動支援センター、北海道地方 ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、中国地方 ESD 活動支援センター、四国地方 ESD 活動支援センター、九州地方 ESD 活動支援センター		
内容	【司会】フリーアナウンサー 渡辺祥子氏		
	開会挨拶	東北地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員長 見上一幸氏	
	主催者活動紹介	ESD /ユネスコスクール東北コンソーシアム 市瀬智紀氏 東北地方 ESD 活動支援センター 鈴木美紀子	
	基調講演	環境省大臣官房 総合政策課環境教育推進室 室長 東岡礼治氏 (オンライン)	
	事例紹介	【テーマ】2023 年までの活動紹介と 2030 年を見据えたこれからの展望・目標	
		青森県	八戸工業大学第二高等学校・附属中学校 坂上尚子氏
		岩手県	一般社団法人ゴジョウ 代表理事 菊池準氏
		宮城県	気仙沼海の子プロジェクト 代表 谷山知宏氏
		秋田県	大仙市立大曲南中学校 校長 島田智氏
		山形県	鶴岡市自然学習交流会「ほとりあ」副館長兼学芸員 上山剛司氏
福島県	只見町教育委員会文化スポーツ係 副主幹 目黒英樹氏		
パネル ディスカッション	【テーマ】2023～2030 年までを考える		
	ファシリテーター	RCE 北海道道央圏協議会 事務局長 有坂美紀氏	
	パネリスト	見上一幸氏 神田外語大学 神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部教授、 教育イノベーション研究センター長、学長補佐 石井雅章氏 一般社団法人あきた地球環境会議 理事・事務局長 福岡真理子氏	
閉会挨拶	市瀬智紀氏		
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> SDGs の後半を支える知恵が、学校、地域共からたくさん出たことに安心、感心しました。 SDGs に義務感とか押し付け感を感じる部分が少なからずあったが、今回の実践発表やパネルディスカッションを拝聴して、それが払拭されました。 未来を守るのではなく、未来を創る。そう考えると、なんだかワクワクしながら SDGs や ESD に取り組んでいけそうです。 ESD としての学びの体系がより豊かに系統的に実施されてきていることが実感できました。良い点を少しでも取り入れて実践できればと思いました。 ESD の方向が、地域連携から地域協働へとシフトが変化してきていて、多様な団体からの取り組みが生まれてきているところが、素晴らしいと思います。 		



●事業総括

【成果】

- 事例紹介では教育現場に限らず、NPO による地域活動や自然学習施設の活動を取り上げ、社会教育や生涯教育にも触れることができ、ESD/SDGs に対してさまざまなアプローチによる活動を紹介することができた。
- 会場では地域 ESD 拠点によるポスター展示を行い交流タイムを設けたことで、参加者のネットワークづくりに寄与することができた。
- 対面、オンラインのどちらも東北外からの参加があり、「東北地方の活動の一端を知ることができた」「東北地方との交流を深めたい」との感想が寄せられた。

【課題】

- 同日に各地で大型イベントが開催され、集客に苦慮した。事前にアーカイブ配信の問い合わせもあり、当日に会場へ参集しないスタイルの定着がみられる。開催時期や開催方法と合わせて広報戦略の検討が課題となる。
- アンケートでは困りごととして「組織の中で理解が得られない」「体制基盤に課題がある」「活動の資金不足」と答える方が多かった。事例の発信やネットワークづくりの他、ESD 推進の課題として挙げられているテーマに対して東北地方 ESD 活動支援センターが何ができるのか、今後の検討課題となる。

5) 地域 ESD 活動推進拠点等の ESD 活動の支援 (仕様書番号 4-(2)-オ-(イ))

●地域 ESD 活動推進拠点 (地域 ESD 拠点) について

ESD 推進ネットワーク*の趣旨に賛同して地域の ESD を支援する組織や施設に登録いただく登録制度で、地方センターのパートナーとして、「ESD 推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たすことが期待されている。

* ESD 推進ネットワーク：ESD の広がりや深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、持続可能な社会づくりを目指す SDGs 達成に向けた意識、行動変革を進めることを目指している。

【構成】 ESD 活動支援センター
地方 ESD 活動支援センター (8 カ所)
地域 ESD 拠点



●地域 ESD 活動推進拠点 活動レポートの作成

掲載	10 団体
電子媒体	PDF データをウェブサイトに掲載
紙媒体	冊子 500 部
備考	<ul style="list-style-type: none"> 未掲載 11 団体のレポートは R6 年度に作成予定 詳細は「② ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供 (P62) 参照

● [全国] 登録団体 182 件 (2023.12.22 現在)

● [東北] 登録団体 21 団体 (R4 年度: 20 団体)

NO.	県	団体名
1	青森	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター
2		八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
3		青森市教育委員会
4		青森市立千刈小学校
5		青森市立堤小学校
6		青森大学 【R5 新規登録】
7	岩手	NPO 法人環境パートナーシップいわて
8	宮城	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
9		公益社団法人仙台ユネスコ協会
10		気仙沼 ESD / RCE 推進委員会
11		一般社団法人日本キリバス協会
12		NPO 法人 LEAF26
13	秋田	一般社団法人あきた地球環境会議
14		認定 NPO 法人 環境あきた県民フォーラム
15	山形	NPO 法人環境ネットやまがた
16	福島	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
17		福島工業高等専門学校
18		只見町教育委員会
19		会津ユネスコ協会
20		いわきユネスコ協会
21		独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家



地域 ESD 活動推進拠点 活動レポート



●事業総括

【成果】

・地域 ESD 拠点とのコミュニケーションや情報発信が課題となっていたことから、東北 ESD/SDGs フォーラムでのポスター展示や活動レポートの作成を企画し、コミュニケーションの機会を増やすとともに地域 ESD 拠点の情報発信に取り組んだ。

【課題】

・活動レポートについては 12 月からウェブサイトに掲載を始め、冊子は 3 月に発行したため広く認知されていない。それぞれの媒体の広報と活用が次年度の課題となる。
・登録当時と比べると活動が停滞している団体もあり、継続して情報交換を行い連携のあり方を模索していきたい。

6) ESD 研修会 (仕様書番号 4-(2)-オ-(ウ))

●プロジェクト概要

ESD 地域研修会は東北地方 ESD 活動支援センター独自の取り組みであり、今後活動を広げていきたい・連携していきたい地域の実践事例や実践者に対して、東北地方 ESD 活動支援センターのネットワークを活用して実施する。地域の関係者に対しての学びと行動変容につながる機会を提供し、ESD 活動の促進と活性化を図り、活動のすそ野を広げる。

●事業目的

東北地方で 21 団体に登録いただいている地域 ESD 推進拠点や ESD 地域コーディネーターと連携したモデルを創出するとともに、東北内で活動する ESD/SDGs の実践事例や実践者を発掘し、ネットワークを構築する。

開催概要

催事名	市民のための ESD 研修会 中田西部町内会 連合会環境講座
開催日	R5/11/19 (日)
開催形式	対面
会場	仙台市柳生市民センター (宮城県仙台市)
参加者	47 名
主催	中田西部連合町内会
共催	東北地方 ESD 活動支援センター
後援	仙台市柳生市民センター 株式会社 SK ホールディングス
内容	(1) 基調講演「The future we want (私たちが望む未来)」 一般社団法人 日本キリバス協会代表理事 ケンタロ・オノ 氏 (2) 話題提供「私たちが出すごみの行方とリサイクルの流れ」 株式会社 SK ホールディングス 人事広報部長 小幡 秀樹 氏
参加者の声	・キリバスと最近の夏の猛暑が結びつき、温暖化を現実として捉えられた。 ・ケンタロ・オノ氏の熱意が伝わってきて、何か行動を起こさなければと感じた。 ・ごみやりサイクルの出し方にも知らないことがたくさんあって、ためになった。 ・(足が不自由な方) 無理をして参加したが、来てよかった、よい話だった。
備考	【企画・運営】 ESD 地域コーディネーター 内藤恵子氏

●達成目標

- ESD 活動の実践者及び関心層に対して ESD/SDGs を学ぶ機会を提供し、ESD 活動の推進を支援する。
- 開催エリアにおける ESD ネットワーク構築を支援する。
- ESD 地域コーディネーターが活動で得た、地域の課題とニーズに対してアプローチできる企画を連携して検討・実施する。

●東北 ESD センターのアプローチ

- 地域 ESD コーディネーターの活動と連動させ、新規の実践者へのアプローチを行い、プログラムを検討した。
- 社会教育、生涯教育として、広く市民が参加し、学びと行動促進につながる内容を企画した。



基調講演「The future we want」



話題提供「私たちが出すごみの行方とリサイクルの流れ」

●事業総括

【成果】

- 自治会、市民センターなど、新たな主体との連携を試みることができた。
- 学校教育の中で SDGs 教育が行われるようになり、児童・生徒は SDGs の学習をしているが、教育を受ける機会が少ない大人世代の学びが課題となっており、東北地方 ESD 活動支援センターでも生涯学習の観点からのアプローチが議論されてきた。町内会と連携して研修会を開催することで、多世代の住民に学びの機会を提供することができた。
- 前半はグローバルな視点で課題を捉え、後半は具体的な行動を提示する構成としたことで、行動変容を促す効果的な講座を開催できた。

【課題】

- 地域 ESD 拠点である日本キリバス協会とは過年度より様々な事業連携をしてきたが、対応できる講座件数には限りがある。東北の各地域で ESD 活動を推進していくために、効果的な発信ができる講師の発掘および育成が課題となる。
- 社会教育の場としての市民センターとの連携、コミュニティスクールや学校支援地域本部・社会学級など、地域にある学びの資源との連結ができておらず、重層的なネットワークの拡充の観点からも重要な課題である。

7) 全国センターとの連携協力の推進等（仕様書番号 4-（2）-カ）

① ESD 全国フォーラム

催事名	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023 気候変動を切り口とした ESD の意義とひろがり～地域における場づくり・仕組みづくり～
開催日	R5/12/9（土）
開催形式	対面
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室（東京都渋谷区）
参加者	会場参加 145 名、オンライン視聴申込数 52 名
主催	ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省
内容	<p>(1) 基調報告</p> <p>①文部科学省国際統括官付 「ESD の推進に向けた文部科学省の取組みについて」</p> <p>②環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 「環境施策及び環境教育・ESD の最新動向について」</p> <p>(2) セッション 1「気候変動を切り口とした ESD の意義とひろがり」 【報告】公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 藤本早恵子氏 次世代ユネスコ国内委員会 小林真緒子氏 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 平田裕之氏 【モデレーター】武蔵野大学工学部サステナビリティ学科教授 白井信雄氏</p> <p>(3) セッション 2 【ピッチ①】「ESD for 2030 学び合いプロジェクト実践事例の共有」 各地方 ESD 活動支援センター</p> <p>【ピッチ②】「ESD 全国ネットワーク団体の実践事例の共有」 認定 NPO 法人開発教育協会 公益財団法人五井平和財団 国立環境研究所気候変動適応東北地方 ESD 活動支援センター 全国小中学校環境教育研究会 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット</p> <p>※ピッチ②と並行して環境教育・ESD 動画 100 選認定書授与を実施</p> <p>(4) 全体総括「ESD・気候変動教育の主流化に向けて」 【進行】NPO 法人新宿環境活動ネット代表理事 飯田哲史氏 【コメンテーター】一般社団法人地球温暖化防止全国ネット理事長 高田研氏 次世代ユネスコ国内委員会 小林真緒子氏 流山防災まちづくりプロジェクト 矢口輝美氏</p>



実践事例の共有



ポスターセッション

② ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

催事名	第1回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
開催日	R5/5/31（水）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）
内容	(1) ESD をめぐる最近の動向について 環境施策及び環境関連人材育成の最新動向 (2) 全国センターの事業について (3) 各地方センターの事業予定について (4) 気候変動教育に関する共有・議論

催事名	第2回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
開催日	R6/1/24（水）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）
内容	(1) 2024 年度 ESD 関連施策の方向性について (2) 学び合いプロジェクト報告と気候変動教育の実施状況 (3) 2024 年度 ESD 活動支援センター・ESD 推進ネットワークの活動

③全国協力団体意見交換会

催事名	2023 年度 第 1 回 ESD 全国ネットワーク団体意見交換会
開催日	R5/9/13（水）
開催形式	対面
会場	東京ウィメンズプラザ 視聴覚室（東京都渋谷区）
内容	(1) 趣旨説明（ESD 活動支援センター） (2) 話題提供「国内外の ESD・気候変動教育の動向」 奈良教育大学教育連携講座／ESD・SDGs センター 及川幸彦氏 (3) 質疑応答・グループディスカッション (4) 話題提供「日本環境教育学会「気候変動教育プロジェクト」について」 武蔵野大学 工学部サステナビリティ学科 白井信雄氏 (5) 質疑応答・グループディスカッション (6) 話題提供「中小企業を対象とした研修教材の紹介」 全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA） (7) 質疑応答・グループディスカッション (8) 総括コメント



ESD 全国ネットワーク団体意見交換会（R5/9/13）



ESD 全国ネットワーク団体意見交換会（R5/9/13）

※第2回は ESD 全国フォーラム（R5/12/9）との一体開催で行われた。

④全国センター企画運営委員会

催事名	第1回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	R5/6/27（火）
開催形式	Web 会議
内容	(1) 開会挨拶・委員紹介 (2) ESD 活動支援センター 2023 年度事業について (3) 2022 年度地域 ESD 活動推進拠点アンケート結果 (4) その他

催事名	第2回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	R6/2/27（火）
開催形式	Web 会議
内容	(1) ESD 活動支援センター主要事業の報告 ・ ESD 活動支援センター活動状況 ・ 全国ネットワーク団体意見交換会 ・ ESD 推進ネットワーク全国フォーラム ・ ESD for 2030 学び合いプロジェクト (2) 気候変動を切り口とした ESD の今後の進め方について (3) 2024 年度 ESD 活動支援センターの活動について

【Ⅲ. 事業報告】 4. 事業実施報告（3）その他 企業等との協働事業

1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

①地球環境基金主催 EPO 連絡会議

開催日	R5/7/21（金）
開催形式	対面
会場	環境再生保全機構第4会議室
内容	(1) 2023 年度全国ユース環境活動発表大会について (2) 2024 年度地球環境基金助成金の募集、説明会実施について (3) 2023 年度ステークホルダーミーティングの実施について (4) 地球環境基金 30 周年事業について

②東北地区高校生 SDGs セミナー 2023 夏

催事名	<全国ユース環境ネットワーク> 東北地区高校生 SDGs セミナー 2023 夏 「生物多様性と SDGs ～高校生同士の SDGs 意見交換会」
開催日	R5/7/27（木）
開催形式	対面中心のハイブリット
会場	TKP ガーデンシティ仙台ホール 30A (宮城県仙台市)
参加者	東北地区の高校 14 校
主催	独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局
共催	環境甲子園（NPO 法人環境会議所東北）
協力	環境省、EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センター
協賛	キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SG ホールディングス株式会社、株式会社タニタ
内容	(1) 全国ユース環境ネットワーク説明 (2) 高校生自己紹介 (3) 情報共有 ～SDGs 概要紹介 (4) 基調講演 東北大学大学院環境科学研究科教授 高橋弘氏 (5) ワークショップ

③ 2024 年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）

催事名	2024 年度地球環境基金助成金説明会 (東北地区)
開催日	R5/10/31（火）
開催形式	Web 会議中心のハイブリット
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	24 名
主催	独立行政法人環境再生保全機構
企画運営	EPO 東北
内容	(1) 概要・助成メニューについて (2) 地域循環共生圏メニュー（特別助成） 助成団体からの話題提供 NPO 法人とめタウンネット 足立千佳子氏 (3) 要望書の書き方について (4) 助成金応募方法について (5) 質疑応答

④地球環境基金ステークホルダーミーティング

催事名	地球環境基金ステークホルダーミーティング～基金創設 30 年を踏まえた今後の地域との関りについて～
開催日	R5/12/4（月）
開催形式	対面
会場	HUMOS5 8F 貸会議室 大（A ホール） (宮城県仙台市)
参加者	14 名
主催	独立行政法人環境再生保全機構
協力	東北地方環境事務所
企画運営	EPO 東北
内容	(1) 参加者自己紹介 (2) 話題提供：地球環境基金について 地球環境基金 永井亮氏 (3) 活動紹介①：中間支援組織の視点から【テーマ】 ①地域の NPO 活動がアフターコロナ時代に入って元気か ②地域の助成金、補助金への申請状況 ③中間支援組織として現在どのような支援をしているのか 【話題提供者】 ・NPO 法人あきたパートナーシップ理事長 富山順子氏 ・NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター 事務局長 青木ユカリ氏 (4) 活動紹介②：活動団体の視点から【テーマ】 ①資金調達の課題 ②組織基盤の課題 ③助成金元に対しての要望、期待する支援 【話題提供者】 ・NPO 法人環境パートナーシップいわて 代表理事 渋谷晃太郎氏 ・やまがたヤマネ研究会代表 中村夢奈氏 ・一般社団法人ふくしまオーガニックコットンプロジェクト代表理事 吉田恵美子氏 (5) 全体意見交換：地域課題の深堀と地球環境基金に求められることについて【テーマ】 ①地域課題 ②地球環境基金に求められること ③地球環境基金との連携



地球環境基金ステークホルダーミーティング（R5/12/4）

2) 青森県 令和5年度環境配慮行動拡大モデル事業

●事業概要

環境問題に関心の薄い県民に関心を持ってもらい、環境配慮行動を実践してもらうためには動機づけが必要であるとの考えのもと、青森県が企画を公募してモデル事業を実施した。

環境保全を図る活動を主たる目的としていない団体が、配慮行動をプラスしてモデル事業を実施することにより、団体及び県民が普段行っている取組みが環境とつながっていることを理解し、取組みを推進することで地域における環境配慮行動の拡大につなげていくことを目的としている。

【実施団体】3 団体

団体名	事業名
① NPO 法人 ACTY	漁師さんと海で遊ぼう ～磯遊びとウニのからむき体験から学ぶ自然環境～
② ふるさとの家保存会	築200年の古民家で、楽しみながら、持続可能な地域づくりと暮らしをともに学び、体験しよう！
③ NPO 法人 ジャズネットワーク	リサイクル楽器でエコジャズコンサート～作って、遊んで、リサイクル～

●コーディネート業務

- ① ワークショップにおける助言始動及び情報提供
- ② 取組みに関する助言指導及び情報提供
- ③ アフターミーティングにおける助言指導

●ワークショップにおけるコーディネート業務

モデル事業実施団体が取組みを実施するにあたり、「環境視点」や「SDGs」に関する情報提供や助言等を行った。

団体名	開催日	開催形式	場所	参加者
① NPO 法人 ACTY	審査会後すぐのイベント開催だったため、ワークショップは実施せず、メールで担当者となりとりを行った。			
② ふるさとの家保存会	R5/8/10 (木)	対面	ふるさとの家 (青森県五戸町)	ふるさとの家保存会 5 名 五戸町役場職員 1 名 青森県庁職員 1 名
③ NPO 法人 ジャズネットワーク	R5/8/30 (水)	対面	弘前商事ビル 2 階 (青森県弘前市)	NPO 法人ジャズネットワーク 3 名 青森県庁職員 1 名
内容				
(1) モデル事業概要説明 (2) 最近の環境に関する情報提供 (3) ワークショップ (4) 質疑応答				

●アフターミーティングにおけるコーディネート業務

取組みの振り返りを行うアフターミーティングにおいて、情報提供や助言等を行った。

団体名	開催日	開催形式	場所	参加者
① NPO 法人 ACTY	R5/11/6 (月)	対面	種差海岸インフォメーションセンター(青森県八戸市)	NPO 法人 ACTY 3 名 青森県庁職員 1 名
② ふるさとの家保存会	R5/11/7 (火)	対面	五戸町役場(青森県五戸町)	ふるさとの家保存会 3 名 五戸町役場職員 2 名 青森県庁職員 1 名
③ NPO 法人 ジャズネットワーク	R5/11/10 (金)	対面	弘前商事ビル 2 階 (青森県弘前市)	NPO 法人ジャズネットワーク 2 名 青森県庁職員 1 名
内容				
(1) 取組報告 (2) 意見交換「環境配慮行動の継続・拡大に向けて」 ・SDGs の視点をプラスした取組みの成果・課題 ・取組みの継続、発展の可能性 ・参加者の行動変容や反響 ・自分たちの活動と「環境」「SDGs の関係性」 (3) 事業報告会における発表の検討				
				
				ふるさとの家

3) マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト

事業名	「マレーシア・サバ州 Sustainable 海洋プロジェクト ～みらいの海を守る高校生イニシアチブ～」(地球環境基金助成事業)	
実施主体	一般社団法人あきた地球環境会議 (CEEAA)	
実施期間	令和5年度～令和7年度(3年間の継続実施を予定)	
対象地域	マレーシア サバ州	
R5 年度	渡航期間	R5/10/26(木)～11/2(木)
	渡航 メンバー	CEEAA スタッフ、秋田中央高校生徒教員、秋田県地球温暖化防止活動推進員、通訳、動画制作会社、EPO 東北

●事業概要

マレーシア・サバ州の高校生を対象に、秋田で展開しているプラスチックごみ現況把握調査やそれに伴う環境教育をベースとし、地域文脈に則った環境保全と循環型社会形成、SDGs 達成のリテラシー向上を得た上で、加速度的な意識・行動変容の促進を目指す。更には、具体的かつ実践的なアプローチを用いた持続可能な海洋プラスチックごみ対策の定着を図る。また、マレーシア政府の意向や動向を反映した形の環境教育を通しては、マレーシアと日本でのグローバル環境リーダーが育成され、本事業がベストプラクティスとして波及することを目指す。

●活動概要

- ①「プラスチックごみ」に関する調査と対策提案活動
- ②海洋プラスチックごみがテーマの環境教育活動
- ③ Project 継続体制の構築

●R5 年度 活動内容

- ①プロジェクト MOU 調印式
※ MOU : Memorandum of Understanding (基本合意書)
- ②カユマダンゴミ処理場視察
- ③ゴミ収集調査
 - ・コタキナバルウエットランドセンター
 - ・ダラウ村
 - ・コムギ村
- ④サバ州側連携先学校調査
 - ・セントルイス中学校
 - ・ステラ・マリス高校
- ⑤表敬訪問
 - ・サバ州環境局
 - ・コタキナバル市役所環境・ゴミセクション課
 - ・在コタキナバル日本領事館
 - ・サバ州生物体多様性センター



市役所表敬訪問



セントルイス中学校 生徒同士の意見交換



ウエットランドセンターゴミ分別回収調査



ステラマリス高校活動紹介

東北環境パートナーシップオフィス 運営第6期 令和5年度事業実施報告書（2023年度）
発行：令和6年3月29日

■東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北）
TEL：022-290-7179 FAX：022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp
URL：https://www.epo-tohoku.jp

■東北地方 ESD 活動支援センター
TEL：022-393-9615 FAX：022-290-7181
E-mail：info@tohoku-esdcenter.jp
URL：https://tohoku.esdcenter.jp/

office：〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F
OPEN 9：00 - 17：30（月～金）



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD 活動支援センター
Esdcenter for Sustainable Development



◇運営団体◇公益財団みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
office：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
TEL：022-276-5118 FAX：022-219-5713
E-mail：melon@miyagi.jpn.org
URL：https://www.melon.or.jp/index.html